第一項　上長官ニ昇進セシ時
第二項　恩給ヲ受クルノ權利ヲ有スル時
第三項　本人死沒スルカ又ハ現役ヲ離ルヽ時
第四項　其妻離別スルカ又ハ死亡シタル時
第五項　天災地變ニ罹リ家產擧ヲ滅亡シタル時

第十二條　結婚願書式並ニ證書式左ノ如シ

第一號書式

結婚願

使府縣國郡區町村
族籍職業
何某何女(姉)(妹)
某
年號月日生
年號月何年何ヶ月

今般熟談ノ上右ニ記載ノ者ト結婚致シ度依テ別紙身元證書(家計保證金證書)相添差出候間御許可被下度此段奉願候也

某　儀

年號月日

官姓名印

太政大臣(陸軍卿)(所管長官)宛

前書之趣篤ト取調候處不都合無之ニ付御許可相成度候也

陸軍卿(所管長官)(何隊長)(何課長)

官姓名印

第二號書式

身元證書

使府縣國郡區町村
族籍職業

何某何女(姉)(妹)

某

年號月日生

年號月何年何ヶ月

右ハ行狀端正ノ者ニ有之候此段致保證候也

使府縣國郡區町村戸長戸長アラサル地ハ區長

姓　名　印

號　月　日

第三號書式

家計保護金證書

一金何百何拾圓也

右ハ今般結婚奉願候ニ付御許可ノ上ハ家計保護金トシテ可差出候也

年　號　月　日

官　姓　名　印

朕陸軍豫備後備將校補充條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名　御璽

明治二十二年五月二十一日

內閣總理大臣伯爵黑田清隆

陸軍大臣伯爵大山巖

勅令第六十九號

陸軍豫備後備將校補充條例

第一條　陸軍豫備將校同相當官ノ補充ハ左ニ揭クル者ヲ以テス

第一　一年志願兵ニシテ一箇年服役ノ後終末試驗及第證書ヲ得テ豫備役ニ入ル者

第二　年齡滿限ニ至ラスシテ現役ヲ退キタル將校同相當官

屯田兵ニ在テハ前項ノ外屯田兵豫備下士ニシテ本隊歩兵ニ在テハ札幌農學校ニ於テ一箇年間軍事學ヲ修メ終末試驗及第證書ヲ所持スル者

第二條　第一條第一ニ當ル者ハ豫備士官ト爲ス可キ爲メ現役ヲ終リタル次年ニ於テ滿ク三箇月間原隊ニ於テ動務演習ヲ爲サシム但志願軍吏生志願軍醫生志願藥劑生ノ動務演習ハ原所屬ニ於テスルト其他ニ於テスルトハ師團長ノ認可ヲ得テ監督部長若クハ軍醫長之ヲ定ム

第三條　第二條ノ動務演習ハ本人ノ冀望ニ依リ他隊ニ於テスルト動務演習ノ期ヲ翌年ニ延スルトハ師團長ノ許可ヲ受クヘキモノトス但シ他ノ師團ノ其隊ニ於テ動務演習ヲナサント欲スルモノハ師團長ヨリ他ノ師團長ニ照會スヘシ

第四條　動務演習ノ時期ハ步兵ニ在テハ師團長他兵ニ在テハ各兵監志願軍吏生志願軍醫生及志願藥劑生ニ在テハ監督部長若クハ軍醫長之ヲ定メ志願獸醫生ニ在テハ本人ノ便宜ヲ斟酌シ原隊ニ於テ之ヲ定ム

第五條　動務演習ニ召集シタル者ハ其演習ノ初ニ於テ豫備見習士官ト爲シ現役見習士官ト同一ノ取扱及教育ヲ受ケシム但志願軍吏生志願軍醫生志願藥劑生及ヒ志願獸醫生ハ各其專門ノ動務ニ服セシム

第六條　動務演習ノ終ニ於テ豫備將校試驗ヲナシ及第ノ者ヲ士官ニ選擧シ及補任ノ手續ヲ上申スルハ陸軍各兵科現役士官補充條例第二十九條乃至第三十一條ニ依ル但豫備將校試驗ノ方法ハ師團長之ヲ定ム志願軍醫生志願藥劑生ハ實地ノ試驗ヲ爲シ其及第者ヲ衛生部士官ニ選擧シ及補任ノ手續ヲ上申スルハ陸軍衛生部現役士官補充條例第十一條乃至第十四條ニ依ル但選擧會議ニ於テ多數ノ否認者アルトキハ其報告書ヲ陸軍省醫務局ニ上申シ醫務局長ハ其理由ヲ具シ陸軍大臣ニ進達シ大臣ニ於テ見習士官ノ分限ヲ除クコトヲ裁定ス此裁定ヲ受ケタル者ハ一等看護長又ハ一等彫刻手ニ任シ豫備役ニ編入ス

志願軍吏生及志願軍醫生ハ實地ノ試驗ヲ爲シ其及第者ヲ軍吏部又ハ獸醫部士官ニ選擧シ及補任ノ手續ヲ上申スルハ前ニ定ムル處ニ依ル

第七條　第六條ノ試驗ニ落第シ仍ホ豫備士官タランコトヲ冀望スル者及

事故アリテ召集ニ應シ得サリシ者ハ次年ノ動務演習ニ召集ス

第八條　第六條ノ試驗ニ落第シタル者ハ聯隊長若クハ之ト同等ノ權アル長官ヨリ（歩兵ハ旅團長ヲ經テ）ニ上申シ許可ヲ得テ豫備見習士官タルノ分限ヲ除キ曹長同相當官若クハ軍曹相當官ニ任ス

第九條　第一條末項ニ揭クル軍事學終末試驗及第證書ヲ所持スル者ヲ豫備士官ト爲スニハ屯田兵司令官其成績ヲ詳悉シ之ニ考科表ヲ添ヘ陸軍大臣ニ進達ス

第十條　豫備將校同相當官ノ服役期限ハ第一條第一ニ當ル者ハ令第十一條ニ依リ二ケ年トシ第二及末項ニ當ル者ハ現役ニ於テ定メタル年齡定限迄トス

第十一條　後備將校同相當官ノ補充ハ左ニ揭クル者ヲ以テス

第一　豫備將校同相當官ヨリ後備籍ニ轉入スル者

第二　年齡滿限ニ至リ現役ヲ退キタル將校同相當官

第十二條　後備將校同相當官ノ服役期限ハ總テ五箇年トス

第十三條　豫後後備將校同相當官ハ現役將校ノ進級停年ニ等シキ年數ヲ超ユルトキハ特ニ進級ノ爲ニスル勤務演習ニ於テ實地ノ技能ヲ查閱シ進級セシムルヲ得其方法ハ前ニ定ムル處ニ依ル

第十四條　豫後備將校同相當官ハ志願ニ由リ其服役期限ヲ延スコトヲ得

第十五條　豫後備將校同相當官ノ服役期限既ニ滿ルト雖モ戰時若クハ事變ニ際スルトキハ其期限ヲ延スヲアル可シ

附　則

第十六條　豫後備將校同相當官ハ當分豫後備下士中士官適任證書ヲ所持スル者ヨリ補充スルヲアルヘシ

士官適任證書ヲ所持スル者ヲ豫後備ノ士官トナスニハ第一條第一ニ當ル者ノ例ニ依ル其服役期限ハ豫後備二ケ年後備五ケ年トス

第十七條　現今後備軍軍員タル將校同相當官中現役ニ於テ定メタル年齢定期ニ滿タサル者ハ其定限ニ滿ツル迄年齢定限ニ由リ後備軍軍員トナリタル者ハ軍員中ノ年數ヲ通算シ五箇年間又後備軍軍員滿期ノ際志願ニ由リ服役延期中ノ者ハ其期限滿ツル迄後備役ニ服セシム

朕陸軍各兵科豫備後備下士補充條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十二年五月二十一日

内閣總理大臣伯爵　黑田清隆

海軍大臣伯爵　大山巖

勅令第七十號

陸軍各兵科豫備後備下士補充條例

第一條　陸軍各兵科憲兵科ヲ除ク以下之ニ倣フ豫備下士ノ補充ハ左ニ掲クル者ヲ以テス

第一　豫備役上等兵中下士適任証書ヲ所持スル者

第二　現役免除ノ際下士ニ任セラレタル者

第三　服役七箇年ニ滿タスシテ現役ヲ退キタル下士

第二條　各大隊長ハ多數ノ豫備下士ヲ養成スルヲ以テ責任トス故ニ毎

年毎大隊ニ於テ渉ナクモ上等兵六名（騎兵砲兵ハ各一名輜重兵ハ四名）ナ下士ニ任シ或ハ下士適任証書ナ附與シ除隊スルモノトス

屯田各兵科ニ在テハ歩兵ハ現役滿期ノ際各中隊ニ四名以上騎砲工兵毎年各中隊ニ一名以上トス

第三條　第二條ノ下士ニ任スヘキ者ハ上等兵中技能優等ニシテ且品行方正ナル者ニ限リ其當選者ハ聯隊長獨立大隊ニ在テハ大隊長以下之ニ倣フ）ヨリ師團長歩兵ハ旅團長ナ經テ屯田兵司令官ニ具狀シ認可ナ受ケ二等軍曹ニ任ス

第四條　陸軍各兵科後備下士ノ補充ハ左ニ掲クル者ナ以テス

第一　後備役上等兵中下士適任証書ナ所持スル者

第二　豫備役ナ終リ後備役ニ轉入スル下士

第三　服役七箇年以上十二ケ年ニ滿タスシテ現役ナ退キタル下士

第五條　第二條第一及第四條第一ノ上等兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ下士ノ缺員ニ應シ聯隊長之ナ三等軍曹ニ任ス

第六條　豫備後備下士ハ任官後現役下士ノ進級停年ニ等シキ年數ナ超ユルトキハ特ニ進級ノ爲ニスル勤務演習ニ於テ實地ノ技能ナ查閱シ進級セシムルコトナ得其方法ハ別ニ定ムル處ニ依ル

第七條　豫備後備ノ下士及下士適任証書ナ所持スル上等兵ハ志願ニ由リ服役期限ナ延スコトナ得

第八條　禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレ又ハ逃亡若クハ失踪シタル者其刑期中及逃亡失踪中ノ日數ハ服役年數ニ算入セス

附則

第九條　豫備後備下士ハ當分豫備後備役兵卒中上等兵ニアラスシテ下士適任証書ナ所持スルモノヨリ補充スルコトアルヘシ

第十條　後備軍艦員滿期ノ際志願ニ依リ服役延期中ノ者ハ其期限滿ツル迄後備役ニ服セシム

朕陸軍豫備後備將校服役條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治二十二年十二月二十八日

勅令第百四十三號

陸軍豫備後備將校服役條例

第一條　陸軍豫備後備將校ハ本籍所在師管ノ兵籍ニ編入シ師團長ノ管轄ニ屬ス

第二條　豫備後備將校ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス平時ニ在テハ動務演習ノタメ召集スルコトアルヘシ

第三條　豫備後備將校ハ召集ニ應スルトキ及朝拜三賀公私ノ儀式祭典其他廉アル宴會等ノ場所ニ列スルトキハ陸軍ノ制服ヲ着スルモノトス但文官ニ任セラレタルモノハ召集ノ場合ヲ除ク外文官ノ制服ヲ着スルヲ妨ナシ

第四條　豫備後備將校ニシテ文官ニ任セラレ余人ヲ以テ代フ可カラサ

ル職務ヲ奉スル者及市町村長、助役、收入役トナルモノハ動務演習ノ爲メ召集スルコトナシ

法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員トナル者其開會中亦同シ

餘人ヲ以テ代フヘカラサル職務ヲ奉スル者ハ豫メ當該官廳ヨリ內閣ヘ具狀シ認可ヲ受ケ本人所管ノ師團長ニ通報スヘシ其事故止ミタルトキ亦同シ

第五條　豫備後備將校ハ現役將校同等官ノ次席トス

第六條　豫備後備將校服役滿期ニ至リタルトキハ辭令ヲ用ヰスシテ豫備ハ後備ニ後備ハ退役ニ入ルモノトス

豫備後備滿期後引續キ服役セント欲スルトキハ年數ヲ定メ陸軍大臣ニ申請スヘシ

第七條　豫備後備將校傷痍若クハ疾病ニ依リ永久服役ニ堪ヘスト思惟スルトキハ陸軍醫官ノ診斷證書若クハ地方醫師ノ病況書ヲ添ヘ退役ヲ陸軍大臣ニ申請スヘシ

第八條　豫備後備將校ニシテ止ムヲ得サル事故アリ動務演習召集ノ猶豫ヲ願フ者ハ其事實ヲ証明シ師團長ノ認可ヲ請フ可シ

第九條　豫備後備將校ニシテ他ノ師管ニ寄留シ該師管ニ於テ動務演習ヲナサント欲スルモノハ所管師團長ノ許可ヲ請フ可シ但許可ヲ受ケタルトキハ豫備後備ノ編入年現官ニ任セラレタル年月及嘗テ動務演習ヲ爲シタル年月ヲ記シ其由ヲ寄留地ノ師團長ニ屆出可シ

第十條　現役ヨリ豫備若クハ後備ニ入ル將校歸鄉シタルトキハ十四日以內ニ師團長ニ屆出可シ

從前ノ在職地若クハ其他ノ地ニ一ケ月以上滯在若クハ寄留セント欲スルトキ若クハ歸鄉旅行日數一ケ月以上ヲ要スルトキハ本籍市町村ニ於テ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者ヲ定メ師團長ニ屆出可シ

但歸鄉シタルトキハ前項ノ屆出ヲサス可シ

前項ノ滯在地若クハ寄留地本籍地外ノ師管ニ係ルトキハ其他ノ師團長ニモ屆出ヘシ但本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲナストキ亦同シ

第十一條　豫備後備將校兵籍上異動ヲ生シタルトキハ十四日以內ニ師團長ニ屆出可シ但師管外ニ戶籍轉換シタルトキハ新舊所管ノ師團長ニ屆出可シ

第十二條　豫備後備將校十四日以上ノ旅行或ハ寄留セントスルトキハ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者ヲ定メ師團長ニ屆出ヘシ但歸鄉シタルトキハ十四日以內ニ師團長ニ屆出ヘシ

前項ノ寄留地本籍地外ノ師管ニ係ルトキハ其地ノ師團長ニモ屆出ヘシ但本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲナス時亦同シ

外國ニ在ル者召集ノ通報ヲ受ケ又ハ其他ノ手續ニ由リ充員若クハ後備軍召集ノ擧アルコトヲ確知シタルトキハ直ニ歸朝シ本籍地到着後二十四時以內ニ屆出可シ

第十三條　豫備後備將校ニシテ市町村長、助役、收入役トナリ又ハ法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員トナリタルトキ並ニ之ヲ罷メタルトキハ十四日以內ニ師團長ニ屆出可シ

第十四條　豫備後備將校ニシテ死亡又ハ失踪シタルモノアルトキ及失踪中戶籍ヲ轉換シタルトキハ其戶主本人戶主ナレハ家族ヨリ十四日以內ニ師團長ニ屆出可シ失踪ノ者歸鄉シタルトキ若クハ踪跡ヲ知得シタルトキ亦同シ但師管外ニ戶籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ師團長ニ屆出可シ

家族ナキモノニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ大隊區司令官ニ通知スヘシ

第十五條　豫備後備將校重罪輕罪罰金ノ刑ニ處セラレタルトキハ刑名及刑期ヲ記シ其戶主本人戶主ナレハ家族ヨリ十四日以內ニ師團長ニ屆出可シ

家族ナキモノニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ大隊區司令官ニ通知スヘシ

第十六條　豫備後備將官ヨリ陸軍大臣ニ差出ス願書ハ師團長ヲ經由シ佐官以下ノ將校ヨリ師團長ニ差出ス願屆書ハ大隊區司令官（豫備後備區該司令官及旅團長ヲ經由シ陸軍大臣ニ差出ス願書ハ大隊區司令官旅團長及師團長ヲ經由スヘシ）以下同シ

第十七條　本條例ハ豫備後備ノ將校相當官ニ適當ス

第十八條　本條例中師團長若クハ旅團長ノ職務ハ第七師管ニ在テハ師團旅團設置迄屯田兵司令官之ヲ行フ

第十九條　第十條第一項及第二項第十一條第十二條第一項及第四項第十三條第十四條第十五條ノ屆出ヲナサヽルモノハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十條　第十條第十二條ノ通報人正當ノ理由ナクシテ召集ノ命ヲ通報セス若クハ其通報ヲ遲緩シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

朕陸軍豫備後備下士兵卒服役條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十二年十二月二十八日

勅令第百四十四號

陸軍豫備後備下士兵卒服役條例

第一條　陸軍豫備後備下士兵卒ハ本籍師管ノ兵籍ニ編入シ大隊區司令官ノ管轄ニ屬ス

第二條　豫備後備下士ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス平常ニ在テハ毎年一度簡閱點呼ヲナシ又勤務演習ノタメ召集スルコアルヘシ

第三條　豫備後備下士ニシテ文官ニ任セラレ余人ヲ以テ代フ可カラサル職務ヲ奉スル者及市町村長助役、收入役トナル者ハ勤務演習簡閱點呼ノ爲メ召集スルコトナシ

法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員トナル者其開會中亦同シ

余人ヲ以テ代フ可カラサル職務ヲ奉スル者ハ豫メ當該官廳ヨリ内閣ヘ具狀シ認可ヲ受ケ本人所管ノ大隊區司令官ニ通報スヘシ其事故止ミタルトキ亦同シ

豫備後備兵卒ニシテ徵兵令第二十二條ニ當ルモノ亦前項ノ例ニ依ル

第四條　豫備後備下士兵卒服役滿期ニ至リタルトキハ辭令ヲ用ヒスシテ豫備ハ後備ニ後備ハ國民兵役ニ入ルモノトス但下士ニ在テハ後備滿期ニ至リタルトキ其官消滅スルモノトス

第五條　豫備後備下士及下士適任證書ヲ所持スルモノ滿期後引續キ服役セント欲スルトキハ年數ヲ定メ市町村長（東京京都大阪ノ三市ニ在テハ區長以下之ニ倣フ）及監視區長ヲ經テ大隊區司令官ニ願出可シ

第六條　豫備後備下士兵卒ニシテ止ムヲ得サル事故アリ勤務演習召集ノ繼續若クハ簡閱點呼免除ヲ願ハント欲スルトキハ其願書ニ市町村長ノ奥書證印ヲ受ケ監視區長ヲ經テ大隊區司令官ニ差出ス可シ

第七條　豫備後備下士兵卒ニシテ監視區外ニ寄留スルモノハ願ニ依リ其地ニ於テ簡閱點呼ヲ受クルコトヲ得

一箇年以上師管歩兵ニ在テハ旅管外ニ寄留スルモノハ願ニ依リ寄留地師管又ハ旅管ニ於テ勤務演習ヲナスコトヲ得

前二項ニ依リ願出ル者ハ本籍市町村長ノ奥書證印ヲ受ケ監視區長ヲ經テ大隊區司令官ニ差出スヘシ但認可ヲ受ケタルトキハ寄留地到着後寄留後出願者ハ三日以内ニ豫備後備ノ編入年ヲ記シ其由ヲ寄留地指令書受領後

市町村長ヲ經テ同地監視區長ニ届出可シ

第八條　現役ヨリ豫備役若クハ後備役ニ入ル下士兵卒ハ十四日以内ニ衛戍地又ハ從前ノ在職地ヲ出發シ一日行程十里詰ヲ以テ少カラサル日數聞ニ歸鄉シ着后十四日以内ニ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出可シ

衛戍地又ハ從前ノ在職地若クハ其他ノ地ニ十五日以上滯在若クハ寄留セント欲スルトキハ本條ノ出發期日内ニ本籍市町村ニ於テ召集ノ命

アルトキ之ヲ通報スヘキ者ヲ定メ市町村長ヲ經テ監視區長ニ屆出可シ

但歸鄉シタルトキハ前項ノ屆ヲナスヘシ

前項ノ滯在地若クハ寄留地本籍地外ノ大隊區ニ係ルトキハ其地ノ市町村長ヲ經テ同地監視區長ニモ屆出ヘシ但本籍ニ復飯シ若クハ寄留替ヲ爲ストキ亦同シ

第九條　豫備後備下士兵卒傷痍若クハ疾病ニ依リ永久服役ニ堪ヘストヲ認ムルトキハ陸軍醫官ノ診斷証書若クハ地方醫師ノ病況書ヲ添ヘ市町村長ヲ經テ監視區長ニ屆出可シ

第十條　豫備後備下士兵卒兵籍上異動ヲ生シタルトキハ十四日以內ニ市町村長ヲ經テ監視區長ニ屆出可シ但監視區外ニ戸籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ監視區長ニ屆出可シ

第十一條　豫備後備下士兵卒十四日以上ノ旅行或ハ寄留セント欲スルトキヘ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者ヲ定メ市町村長ヲ經テ監視區長ニ屆出可シ但歸鄉シタルトキハ十四日以內ニ市町村長ヲ經テ監

視區長ニ屆出可シ但歸鄉シタルトキハ前項ノ屆ヲナスヘシ

前項ノ寄留地本籍地外ノ大隊區ニ係ルトキハ寄留地市町村長ヲ經テ同地監視區長ニモ屆出可シ但本籍ニ復飯シ若クハ寄留替ヲ爲ストキ亦同シ

外國ニ旅行中又ハ寄留中ハ勤務演習簡閱點呼ノ爲メ召集スルコトナシ但對馬警備隊區ニ在テハ朝鮮國釜山ニ旅行又ハ寄留スル者ハ此限ニアラス

外國ニ在ル者召集ノ通報ヲ受ケ又ハ其他ノ手續ニ由リ充員若クハ後備軍ノ擧アルコトヲ確知シタルトキハ直ニ歸朝シ本籍地到着後二十四時以內ニ市町村長ヲ經テ監視區長ニ屆出可シ

第十二條　豫備後備下士兵卒ニシテ市町村長助役收入役トナリ又ハ法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員トナリタルトキ並ニ之ヲ罷メタルト

キハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ監視區長ニ屆出可シ

第十三條　豫備後備下士兵卒ニシテ死亡又ハ失踪シタルモノアルトキ及失踪中戸籍ヲ轉換シタルトキハ其戸主（本人戸主ナレハ家族）ヨリ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ監視區長ニ屆出可シ失踪ノ者歸鄉シタルトキ若クハ踪跡ヲ知得シタルトキ亦同シ但監視區外ニ戸籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ監視區長ニモ屆出ヘシ

家族ナキモノニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ監視區長ニ通知スヘシ

第十四條　豫備後備下士兵卒重罪輕罪（罰金ナノ刑ニ處セラレタルトキハ除ク）ノ刑名及刑期ヲ記シ其戸主（本人戸主ナレハ家族）ヨリ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ監視區長ニ屆出可シ

家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ監視區長ヘ通知スヘシ

第十五條　本條例中兵卒ト稱スルハ雜卒職工モ包含ス

第十六條　第七條第三項但書第八條第一項及第二項第十條第十一條第一項及第四項第十二條第十三條第十四條屆出ヲナサヽル者ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第十七條　第八條第十一條ノ通報人正當ノ事由ナクシテ召集ノ命ヲ通報セス若クハ其通報ヲ遲緩シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第十八條　豫備後備下士兵卒正當ノ事由ナクシテ簡閲點呼ニ會セサル者ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第十九條　警備隊區ニ於テハ本條例中大隊區司令官ノ職務ハ警備隊區司令官之ヲ行ヒ監視區長ノ職務ハ警備隊區副官之ヲ行フ又大隊區監視區トアレハ同警備隊區トス

附　則

第二十條　屯田兵條例ニ依リ服役スル豫備役下士兵卒ノ取扱ハ別ニ定ムル所ニ據ル

第二十一條　第七師管ニ大隊區司令部設置迄ハ大隊區司令官ノ職務ハ屯田兵司令官之ヲ行ヒ監視區長ノ職務ハ屯田兵副官之ヲ行フ

第二十二條　市制町村制ヲ實施セサル地方ニ在テハ本條例中市町村長ノ職務ハ戸長ニ於テ之ヲ行フヘシ

陸達第三十一號

陸軍休職停職將校同相當官准士官在鄉規則左ノ通定ム

但明治二十二年陸達第二十號ハ廢止ス

明治二十七年十月二十日

陸軍大臣伯爵西鄉從道代理

陸軍次官兒玉源太郎

陸軍休職停職將校同相當官准士官在鄉規則

第一條　陸軍休職停職ノ將校同相當官竝准士官ハ本籍ニ歸住シ師團長ノ管轄ニ屬ス師管外ノ地ニ寄留スル者ハ其地師團長ノ監督ヲ受ク

第二條　休職停職ヲ命セラレタル者歸鄉シタルトキハ七日以內ニ師團長ニ屆出ヘシ但歸鄉旅行日數一箇月以上ヲ要スルトキハ到着日ヲ豫定シ出發前舊所管ニ屆出可シ

從前ノ在職地若クハ其他ノ地ニ一箇月以上滯在若クハ寄留セント欲スル者ハ舊所管長官ニ願出テ其許可ヲ受ケタルトキハ七日以內ニ本

籍所管ノ師團長ニ届出可シ但歸鄉シタルトキハ前項ノ届出ヲ爲スヘシ

前項ノ滯在若クハ寄留地本籍地外ノ師管ニ係ルトキハ滯在若クハ寄留ノ當日ヨリ七日以内ニ其地所管ノ師團長ニモ届出可シ但本籍ニ復歸若クハ寄留替ヲ爲ストキ亦同シ

第三條　師管外ノ地ニ寄留セントス欲スル者ハ師團長ニ願出テ許可ヲ受ク可シ但寄留地ニ到着シタルトキハ七日以内ニ其他所管ノ師團長ニ届出可シ

第四條　寄留地師管ノ兵籍ニ歸セントスル者ハ師團長ニ願出テ許可ヲ受ケタルトキハ其旨ヲ寄留地所管ノ師團長ニ届出可シ

第五條　兵籍上異動ヲ生シタルトキハ其旨ヲ師團長ニ届出可シ但自己ノ身上ニ係ル異動ハ寄留地所管ノ師團長ニモ届出可シ

第六條　七日以上ノ旅行又ハ轉地療養等ノ類ハ現住地所管ノ師團長ニ届出可シ其復歸シタルトキ亦同シ

第七條　本規則中師團長トアルハ第七師管ニ在テハ第七師團ヲ置ク迄ハ屯田兵司令官トス

第八條　佐官以下ノ將校同相當官竝准士官ヨリ師團長ニ差出ス願届書ハ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官及旅團長ヲ經由ス可シ

朕陸軍士官學校條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十六年十二月十六日

陸軍大臣伯爵大山巖

勅令第二百三十三號

陸軍士官學校條例

第一條　陸軍士官學校ハ陸軍各兵科ノ士官候補生ヲ召集シテ生徒トナシ初級士官タルニ必要ナル教育ヲ爲ス所トス

第二條　本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長	大佐	
副官	大尉 中尉	
教官	中(少)佐、少佐、大尉 軍醫、獸醫、陸軍教授	
馬術教官	騎兵大尉	
中隊長	大尉	

中隊附士官　中尉
軍醫
獸醫
軍吏

第三條　校長ハ監軍ニ隷シ校務ヲ總理シ生徒教育ノ責ニ任ス

第四條　副官ハ校中ノ庶務ヲ掌リ其下ニ准士官及下士陸軍屬ヲ置ク

第五條　武官教官ハ各學科ノ教授ヲ分擔シ其中佐若クハ少佐ノ教官ヲ以テ科長トス

第六條　各科長中戰術軍制學科長ハ本科教授ノ外訓育ニ屬スル術科ノ監督ヲ兼スルモノトス

第七條　馬術教官ハ諸生徒ノ馬術及騎兵科生徒ノ教練ニ任シ兼テ校廐一切ノ事ヲ統ヘ馬匹ノ調教ヲ掌理ス其下ニ騎兵科下副官同下士ヲ置

第八條　文官教官ハ外國語學科ノ教授ヲ分擔ス尚ホ教授ノ外助教ヲ置クヲ得

第九條　中隊長ハ專ラ訓育ノ事ヲ掌リ中隊附士官ヲシテ其諸科目ヲ分擔セシメ生徒ヲシテ諸動務ニ熟セシメ且ツ內務及室內ノ整頓竝ニ生徒ノ行狀ヲ監視スルヲ任トス

第十條　中隊附士官ハ中隊長ノ下ニ在テ訓育ノ諸科目ヲ分擔シ殊ニ生徒ノ身上ニ就テハ日常瑣末ノ事件ニ至ルマテ之ヲ監視スルヲ任トス但騎兵科士官ハ生徒ノ馬術及騎兵科生徒ノ教練上ニ就テハ馬術教官ニ隷ス

第十一條　中隊附士官ハ總テ校內ノ官舍ニ居住シ生徒ノ監視ニ便ナラシム

第十二條　各中隊ニ下副官及下士ヲ置キ下副官ハ中隊ノ庶務ヲ整理シ下士ハ武器、被服、賄給與、教練等ノ事ヲ掌ル但シ下士中ノ若干員ハ本文

勤務ノ外劍術體操ノ助教ヲ分擔ス

第十三條　兵卒ヲ師團各隊ヨリ分遣セシメ生徒ノ使用ニ供フ

第十四條　軍醫ノ下ニ看護長獸醫ノ下ニ蹄鐵工長(下長)軍吏ノ下ニ書記ヲ置ク

第十五條　生徒ノ學期ハ一年七箇月トシ毎年十二月上旬ニ始リ翌々年六月下旬ニ終ルモノトス

第十六條　生徒ハ二中隊ニ編制シ各中隊ハ同學期ノ生徒ヲ以テス

第十七條　生徒ノ教育ハ之ヲ分テ教授及訓育トシ其課程ノ士官學校長案ヲ具シ監軍ニ進達シ其認可ヲ得テ之ヲ定ム

第十八條　生徒ハ其兵籍素ヨリ本隊ヲ離ルヘコトナシト雖モ入校中ハ總テ本校ノ管轄トス

第十九條　生徒ノ諸給與ハ別ニ定ムル所ノ規則ニ據ル

第二十條　生徒ハ情願ヲ以テ退校スルヲ許サス

第二十一條　生徒中左ノ事項ニ該ル者ハ退校歸隊セシム

其一　學術科ノ豫習全カラスシテ實際勤務練習ノ職力ニ乏シク卒業ノ目途ナキ者

其二　軍紀ヲ紊リ又ハ屢々法則ヲ犯ス者

其三　品行不正ニシテ悔悟ノ目途ナキ者

其四　自己ノ不攝生ヨリ發病シ久シク休業スル者

其五　長病ニ由リ卒業ノ目途ナキ者

第二十二條　校長ハ學期ノ終リニ於テ生徒ノ卒業試驗ヲ施行シ各教官及中隊長ヲ集メ會議ヲ開キ全學期中ノ諸結果ト卒業試驗ノ成績ヲ對照シ序列ヲ定メ考科表ヲ製シ監軍ニ進達シ監軍ノ認可ヲ得テ教則ニ定ムル所ノ課定卒業ノ證書ヲ附與ス

第二十三條　學期中ノ諸結果劣等ノ爲メ卒業試驗ヲ受クルヲ得ス若クハ卒業試驗ニ落第セシ者ハ本條例第二十一條ニ據ル

第三十四條　每年七月中旬ヨリ九月上旬マテノ間ニ於テ凡ソ六週間生徒ヲ休暇ヲ與フ此間校附諸官ハ教科書編纂訂正等ノ事ニ服ス

第三十五條　每年次期ヲ終リタル生徒ノ教授及訓育ニ任セン欲官及中隊長中隊附士官ハ九月上旬ヨリ十一月中旬マテノ間師團各隊ニ派遣シ隊附勤務ヲ爲サシム

第二十六條　前條隊附勤務ヲ爲スニハ中隊長及中隊附士官ハ各本科ノ兵隊ニ限ルト雖モ教官ニ在テハ歩騎砲工輜重兵隊中ニ就キ已レノ屬スヘキ兵種ヲ希望スルコトヲ得

第二十七條　本校ニ所要ノ屬廳及其材料ヲ備フ其馬匹材料ハ他諸學校ニ兼用スル

第二十八條　生徒野營演習ノ際所要ニ依リ校圍若クハ第一師圍ノ諸隊ヲ使用スルコトヲ得

朕陸軍幼年學校條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十六年十二月十六日

陸軍大臣伯爵大山　巖

勅令第二百三十四號

陸軍幼年學校條例

第一條　陸軍幼年學校ハ陸軍幼年生徒ニ概ヲ尋常中學ト同一ナル教授竝ニ軍人ノ豫備教育ヲ與ヘ陸軍各兵科ノ士官候補生ヲ養成スル所トス

第二條　本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長　佐官

副官　大(中)尉

教官　陸軍教授

馬術教官　騎兵中尉

中隊長　大尉
中隊附士官　中尉
軍醫
軍吏

第三條　校長ハ監軍ニ隷シ校務ヲ總理シ生徒教育ノ責ニ任ス

第四條　副官ハ校中ノ庶務ヲ掌リ其下ニ下士及陸軍屬ヲ置ク

第五條　教官ハ各學科ノ教授ヲ分擔ス尚ホ教授ノ外助教ヲ置ク

第六條　馬術教官ハ生徒馬術ノ教練ヲ總ヘ其下ニ騎兵科下士ヲ置ク

第七條　中隊長ハ專ラ訓育ノ事ヲ掌リ中隊附士官ヲシテ其諸科目ヲ分擔セシメ生徒ヲシテ諸動務ニ熟セシメ且內務及室內ノ整頓竝ニ生徒ノ行狀ヲ監視スルヲ任トス

第八條　中隊附士官ハ中隊長ノ下ニ在ヲ生徒訓育ノ諸科目ヲ分擔シ殊ニ生徒ノ身上ニ就テハ日常瑣末ノ事件ニ至ルマテ之ヲ監視スルヲ中

トス

第九條　中隊附士官ハ總テ校內ノ官舍ニ居住シ生徒ノ監視ニ便ナラシムヘシ

第十條　各中隊ニ下副官及下士ヲ置キ下副官ハ中隊ノ庶務ヲ整理シ下士ハ武器、被服、諸給與、炊爨等ノ事ヲ掌リ且ツ劍術及體操ノ助教ヲ分擔スヘシ

第十一條　軍醫ノ下ニ看護長軍吏ノ下ニ書記ヲ置ク

第十二條　生徒ハ官費、半官費、自費ノ三種ニ分ツ

官費生徒ハ一切ノ經費ヲ官給シ且手當金ヲ給ス半官費生徒ハ小被服賄料ノ經費自費生徒ハ被服糧食一切ノ經費ヲ納メシムヘシ其金額ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第十三條　戰死シタルタル（平時公務ノ爲メ死亡シ者モ亦之ニ準ス）將校同相當官、高等文官ノ孤兒ハ官費生徒トス

第十四條　前條ノ外官費生徒半官費生徒自費生徒ト爲スヘキ者ハ監軍之ヲ裁定ス

第十五條　前條ノ區分ハ專ヲ資產ノ多少ヲ察知シ之ニ應シテ取捨スヘシト雖モ仍ホ左ニ列記スル者ハ殊ニ顧慮スヘシ

其一　在職士官ノ子弟

其二　現職ニアラサル上長官ノ子弟

其三　死亡シタル將校同相當官ノ子弟

其四　前三項ニ均シキ高等文官ノ子弟

其五　在職上長官現職ニアラサル將官同相當官ノ子弟

其六　前項ニ均シキ高等文官ノ子弟

第十六條　生徒修學期限ハ三箇年トス而シテ其一年期ハ九月上旬ニ始マリ翌年七月上旬ニ終ル但最終ノ一年期ハ翌年五月中旬ニ終ル

第十七條　生徒ハ之ヲ二中隊ニ編成ス

第十八條　生徒ノ教育ハ之ヲ分テ教授及訓育トシ其課程ハ幼年學校長案ヲ具シ監軍ニ進達シ其認可ヲ得テ之ヲ定ム

第十九條　生徒ハ情願ヲ以テ退校スルヲ許サス

第二十條　第三年生徒中特ニ學術ニ長シ品行方正ニシテ他ノ望標トナルモノ若干員ヲ撰拔シ舍長ヲ命シ特別ノ徽章ヲ附セシム

第二十一條　校長ハ學期末ニ於テ生徒ノ卒業試驗ヲ施行シ各教官及中隊長ヲ集メ會議ヲ開キ全學期中ノ諸結果ト卒業試驗ノ成績ヲ對照シ序列ヲ定メ考科表ヲ製シ監軍ニ進達シ監軍ノ認可ヲ得テ敎則ニ定ムル所ノ課程卒業ノ證書ヲ附與ス其學術品行共ニ優等ナル者ハ同時ニ二等軍曹ノ階級ニ進ルコトヲ得

第二十二條　生徒中定期内ニ卒業シ得サル者ト雖モ尚ホ望ミアル者ハ定期外一箇年延期修學セシムルコトヲ得

第二十三條　生徒中左ノ事項ニ該ル者ハ退校セシム

其一　學術ノ修得全カラス卒業ノ目途ナキ者

其二　軍紀ヲ紊リ又ハ屢々法則ヲ犯ス者

其三　品行不正ニシテ悔悟ノ目途ナキ者

其四　病ニ由リ卒業ノ目途ナキ者

但自己ノ不攝生ヨリ生セサル長病ニシテ尚ホ卒業ノ見込アル者ハ特別ノ詮議ニ附スルコトヲ得

第二十四條　生徒中全學期ヲ終ルモ病氣其他ノ事故ニ因リ士官候補生ト爲スヲ得サル者ハ單ニ該則卒業ノ證書ヲ附與シ退校セシム

第二十五條　前二條ニ該ル者アルトキハ幼年學校長事由ヲ悉シ監軍ニ上申シ監軍之ヲ裁定處分ス

第二十六條　毎年七月中旬ヨリ八月下旬ノ間ニ於テ凡ソ三十日間生徒ニ休暇ヲ與フ此間校附諸官ハ教科書編纂訂正等ノ事ニ服ス

第二十七條　毎年六月上旬ヨリ八月下旬ニテ中隊附士官若干ヲ師團本

科ノ兵隊ニ派遣シ隊附勤務ヲ爲サシム

第二十八條　本校ニ所要ノ馬匹及其材料ハ士官學校所要ノモノヲ兼用ス

朕陸軍幼年學校生徒召集條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治三十二年七月四日

勅令第九十號

陸軍幼年學校生徒召集條例

第一條　陸軍幼年學校生徒ハ陸軍出身志願ノ者ニシテ年齢十五年以上十八年以下ノ者ヲ召集シ身體檢查及入學試驗ノ成績ニ依リ必要ノ人員ヲ採用スルモノトス

第二條　每年採用スヘキ生徒ノ人員ハ其時々陸軍大臣之ヲ定メ監軍ニ移ス

第三條　生徒召集ノ試驗格例ハ每年監軍之ヲ定メ陸軍大臣之ヲ告達ス

第四條　生徒タラントスル志願ノ者ハ願書ニ履歷書ヲ添ヘ本籍ノ地方長官（寄留ノ者ハ其寄留ノ地方長官）ニ差出シ地方長官ハ各志願者ノ身分、財產、敎育、性質品行等詳細之ヲ取調ヘ其證明書ヲ作リ之ヲ願書ニ添ヘ其地所管師

團長ニ送付スヘシ師團長ハ之ヲ監軍ニ進達ス

第五條　志願者ハ前條ノ手續ヲ爲シタル後試驗ヲナス之カ爲メ監軍ハ志願者ノ人名書ヲ師團長（近衛師團長ヲ除ク）ニ下シ師團長（同上）ハ之ヲ陸軍將校生徒試驗臨時委員ニ下付シ該委員ヲ各試驗場ニ派遣シテ試驗ヲ施行セシム

第六條　師團長ハ試驗前ニ於テ身體撿査ノ時日ヲ定メ之ヲ地方長官ニ通達シ志願者ヲ撿査地ニ召集シ陸軍醫官ヲシテ身體撿査ヲ爲サシメ合格者ノ人名書ヲ陸軍將校生徒試驗臨時委員到着ノ時ニ下附ス

陸軍將校生徒試驗臨時委員ハ試驗ノ上其書類ヲ師團長（近衛師團長ヲ除ク）ニ進達シ師團長（近衛師團長ヲ除ク）ハ之ヲ監軍ニ進達ス

第七條　監軍ハ本條例第四條ノ書類ト第六條試驗成績トニ依リ之ヲ裁定シ入校ヲ命ス

陸軍省告示第十七號

明治二十八年陸軍各兵科現役士官候補生志願者學科試驗格例陸軍幼年學校生徒志願者學科試驗格例、陸軍一年志願兵志願者學科格例並ニ志願者心得左ノ通改ム

明治二十七年十月十九日　陸軍大臣伯爵西鄕從道

（明治二十八年陸軍各兵科現役士官候補生志願學科試驗格例）

試驗格

○讀　書　漢文（古文訓讀）

作　文　應記論說（漢字交リ文）

數　學　算術代數平面幾何立體幾何平面三角

地　理　日本外史　日本地文

歷　史　日本外國

博物生理及衛生、動物植物

○物理力學物質論、熱學、音學、光學、越歷學、磁氣學

化學無機化學

圖幾何圖

畫自在畫

○外國語學英佛獨(和文歐譯歐文和譯)

備考

一試驗ノ程度ハ尋常中學全科卒業ノ學力ニ比準ス

二外國語學ハ英佛獨ノ內一種ヲ限リ試驗ス

明治二十八年陸軍幼年學校生徒志願者學科試驗格例

試驗格

讀書漢文(白文訓讀)

作文書牘(通俗文)記事(漢字交リ文)

數學算術代數(整數類則ヨリ一元一次方程式ニ至ル)平面幾何(初步)

地理日本、支那、朝鮮

歷史日本、支那

物理初步

化學初步

圖幾何圖

畫自在畫

外國語學英佛獨(歐文譯解)

備考	一 試驗ノ程度ハ概ネ尋常中學二年級卒業ノ學力ニ比準ス 二 外國語學ハ英佛獨ノ內一種ヲ限リ試驗ス

明治二十八年陸軍一年志願兵志願者學試驗科格例

試驗格

讀書	漢文(白文訓讀)
作文	記事論說(漢字交リ文)
數學	算術代數平面幾何
地理	日本亞細亞
歷史	日本、外國
圖畫	幾何圖 自在畫
備考	一 試驗ノ程度ハ尋常中學全科卒業ノ學力ニ比準ス

明治二十八年士官候補生、幼年學校生徒、一年志願兵志願者心得

第一條　士官候補生及ヒ幼年學校生徒ハ陸軍各兵科現役士官補充條例及陸軍幼年學校生徒召募條例ニ據リ採用ス然レトモ左ニ記スル者ハ採用セス

一　士官候補生ハ身長五尺ニ滿タサル者、幼年學校生徒ハ身體撿査當時ニアリテ年齡十六年未滿ハ身長四尺七寸、十七年未滿ハ四尺八寸十八年未滿ハ四尺九寸ニ滿タサル者

二　妻アル者

三　本人竝ニ父若クハ戸主復權ヲ得サル家資分散者及身代限リノ處分ヲ受ケ辨償ノ義務終ヘサル者

四　禁錮ノ刑ニ處セラレタル者及賭博犯ノ處分ヲ受ケシ者

第二條　年齢ヲ算スルハ士官候補生ハ二十八年十一月幼年學校生徒ハ同年八月ヲ以テス

明治五年十二月一日ヨリ同十年十二月盡日迄ニ出生ノ者ハ士官候補生ヲ志願シ明治十年九月一日ヨリ同十三年九月盡日迄ニ出生ノ者ハ幼年學校生徒ヲ志願スルコトヲ得

第三條　明治二十八年採用ス可キ士官候補生、幼年學校生徒ノ人員ハ左ノ如シ

士官候補生　凡ソ二百五十人

幼年學校生徒　凡ソ百人

第四條　士官候補生竝ニ幼年學校生徒入隊及ヒ入校ノ上ハ士官候補生ハ陸軍各兵科現役士官補充條例第三十一條幼年學校生徒ハ同校條例第十九條ニ依リ自己ノ情願ヲ以テ免役及ヒ退校又ハ歸省スルヲ許サス

第五條　士官候補生ノ諸給與ハ陸軍各兵科現役士官補充條例第十九條ニ據リ一切官給トス

幼年學校生徒ノ諸給與ハ幼年學校條例第十二條乃至第十五條ニ據リ詮議ノ上官費生徒半官費生徒自費生徒ト爲ス其官費生徒ハ一切ノ費用ヲ官給シ且ツ若干ノ手當金ヲ給ス半官費生徒ハ精米、大被服（輯、第一種衣袴、夏衣袴、外套等）被服修理料、被服永續料ヲ官給シ賄料、小被服（第二種衣袴、襦袢、袴下、靴、手套等）ヲ自辨トス自費生徒ハ被服食料一切自辨トス但修學用圖書器具裝具寢具等ハ半官費生徒自費生徒共ニ之ヲ貸與ス

半官費生徒及自費生徒ハ前項被服糧食ノ費トシテ左ノ金額ヲ上納セシメ而シテ實費精算ノ上不足ハ之ヲ追納セシメ餘剩ハ之ヲ還付スヘ

シ

	初度被服料	毎月上納金
半官費生徒	金拾三圓	金三圓貳拾五錢
同		同
自費生徒	金三拾貳圓	金六圓五拾錢

初度被服料及ヒ入校當月ノ上納金ハ入校前月二十五日ニ其他毎月上納金ハ其前月二十五日ニ身元保證人ヨリ幼年學校ヘ上納スヘシ但當日日曜日其他休暇日ナルトキハ其前日上納スヘシ

毎月上納金ハ若干月分取纏メ前納スルモ妨ケナシ

一年志願ハ陸軍一年志願兵條例ニ依リ糧食被服裝具兵器彈藥ノ現品ヲ給シ其被服費裝具費彈藥費及兵器修理費トシテ金六拾貳圓糧食費トシテ金三拾八圓ヲ納メシム又騎兵科ニ入ル者ニハ馬匹ヲ貸與シ馬糧費裝蹄費馴毛費及馬藥費トシテ更ニ金七五拾圓ヲ納メシム（獸醫生

タヲテトスル者ハ此納金ヲ要セス）以上ノ金額ニテ不足ヲ生スルトキハ之ヲ追徵シ殘餘アルトキハ之ヲ還附シ兵器ハ本人滿期ノ際之ヲ返納セシム

前項費用ノ金額ヲ自辨シ能ハサルノ證アルモノハ糧食費外ノ費用ヲ官給ス其定員ハ別ニ之ヲ定ム

一年志願兵ハ在營セシムルヲ例トス但本人ノ願ニ依リ外泊ヲ許シ通勤セシムルコトアルヘシ

一年志願兵ハ總テ無給料トス其撿査往復並ニ入營退營旅費亦自辨トス

士官候補生幼年學校生徒一年志願兵入隊入校中官物ヲ毀損若クハ紛失スルトキハ自償スルモノトス

第六條　華士族平民ヨリ士官候補生ヲ志願スル者ハ第一號第四號第五號書式ニ幼年學校生徒ヲ志願スル者ハ第三號第四號第五號書式ニ準

シ願書ニ戸籍及履歴書、誕生證書ヲ添ヘ之ヲ本籍地方長官（寄留ノ者ハ其地ノ地方長官）ニ差出スヘシ但身元保證人二名ハ父兄親族其他一家ヲ爲ス身元確實ナル者タルヘシ

第七條　陸軍部内ニ於テ士官候補生ヲ志願スル者ハ第二號第四號書式ニ準シ願書ニ戸籍及履歴書ヲ添ヘ順序ヲ經テ師團長ニ差出ス可シ

第八條　士官候補生志願者希望兵種隊號ハ書式ニ準シ必ス願書中ニ記入スヘシ但學科試驗ノ成蹟其他採用人員ノ都合ニ依リ希望外ノ軍隊ニ入隊ヲ命スルコトアルヘシ

第九條　一年志願兵ノ出願手續ハ陸軍一年志願兵條例第八條、同條例施行細則第三條ニ準據スヘシ

第十條　士官候補生並幼年學校生徒志願者願書差出後入隊若クハ入校マテノ間ニ於テ轉任轉隊派遣若クハ轉籍轉寄留改姓名犯罪死亡等身上ニ異動アルトキハ本人、親族若クハ身元保證人ヨリ出願ノ手續ニ從ヒ順次速ニ監軍部ニ屆出ヘシ又身元保證人事故アリテ其保證ヲ辭スルカ或ハ死亡スルトキハ必ス其代人ヲ選定シ前同樣屆出ヘシ

士官候補生志願者入隊ノ後身元保證人變更スルトキハ順序ヲ經テ本人ヨリ速ニ監軍部ニ屆出ヘシ又幼年學校生徒志願者入校ノ後ニ在テハ身上ノ異動身元保證人ノ變更等總テ同校長ヘ屆出ツヘシ

一年志願兵志願者願書差出後入隊前ニ於テ犯罪死亡其他身上ニ異動アルトキハ陸軍一年志願兵條例第三十一條ニ依リ本人若クハ親族ヨリ速ニ旅團長ニ屆出ヘシ

第十一條　身體檢査ハ明治二十八年四月上旬學科試驗ハ四月十一日ヨリ開始ス總テ志願者ハ必ス檢査時日ニ先チ指示ノ檢査地ニ到着シ其地師團司令部旅團司令部若クハ大隊區司令部ニ書面ヲ以テ止宿所等ヲ屆出ツヘシ檢査地ニ住居スル志願者モ之ニ準ス

第十二條　總テ受檢者ノ服裝ハ陸軍部内ノ志願者ハ第一種衣袴華士族

平民ヨリ志願者ハ洋服若クハ袴着用タルヘシ

第十三條　準士族平民ヨリスル士官候補生幼年學校生徒志願者ハ身體檢査ノ際明治五年一月以後撮影ノ半身正面ニシテ脫帽ノ姿勢ヲ特參シ檢査醫官ニ差出スヘシ（裏面ニ族籍姓名ヲ自書スヘシ）

第十四條　總テ受驗者ハ學科試驗ノ際筆墨、墨池、小刀、圖引具、三角板ヲ携帶スルヲ許ス其他一切書籍筆記類ハ勿論白紙等ヲ携帶スルヲ許サス違犯スル者ハ試驗ヲ止メ除名スルコトアルヘシ

第十五條　準士族平民ヨリスル志願者ハ在ラヤ試驗地ノ往復竝ニ滯在費等ハ一切自辨スヘシ

第十六條　身體檢査學科試驗ヲ際シ病氣其他ノ事故ニ依リ又ハ故ナク不參スル者ハ本人ノ願書ヲ無效トシ直ニ除名スルモノトス

第十七條　準士族平民ヨリスル志願者合格ノ上入隊及ハ入校ヲ命スル者ハ族籍ノ證明ヲ受ケ入校期日前之ヲ幼年學校長ニ差出スヘシ但官費生徒ヲ命セラレタル者ハ第六號書式中官費生徒若クハ自費生徒ヲ命セラレタル者ハ第七號書式ニ準シテ調製スヘシ

第十八條　幼年學校生徒志願者ニシテ入校ヲ命セラレタル者ハ父兄親族若クハ其他一家ヲ爲ス身元確實ナル者二名（内一名ハ東京在住者タルヘシ）ヲ以テ身元保證人ト爲シ入校證書ヲ調製シ島司郡市長（東京、京都、大阪ノ三市ニ在テハ區長）ノ奥書證明ヲ受ケ入校期日前之ヲ幼年學校長ニ差出スヘシ但官費生徒ヲ命セラレタル者ハ第六號書式中官費生徒若クハ自費生徒ヲ命セラレタル者ハ第七號書式ニ準シテ調製スヘシ

第十九條　士官候補生幼年學校生徒ヲ命セラレタル者疾病其他止ムヲ得サル事故ヲ生シ所命ノ期日ニ入隊、入校シ難キトキハ證明書類ヲ添ヘ二十日以内ノ日數間入隊入校ノ延期ヲ聽ク隊長幼年學校長ニ願出ツヘシ

其事故二十日以内ニ止マサル者ハ既ニ下付セル採用辭令書ヲ無效ト爲シ之ヲ返納セシメ除名スルモノトス正當ノ事由ナクシテ入隊、入校ノ期ニ後ルヽ者之ニ準ス

第二十條　一年志願兵認定證書ヲ所持スル者疾病其他止ヲ得サル事故ニ由リ十二月一日ニ入隊シ難キトキハ證明書類ヲ添ヘ入隊延期ヲ旅團長ニ願出ヘシ

前項ノ事故アル者十二月三十一日ヲ過クルモ入隊シ難シト認ムルトキハ次年廻シト爲ス又正當ノ事由ナクシテ其年十二月一日ニ入隊セサルトキハ一年志願兵タルノ資格ヲ失フモノトス

第一號書式　用紙美濃紙以下之ニ同シ

士官候補生願　某儀

陸軍出身志願ニ付士官候補生ニ御採用被下度御認可相成入隊ノ上ハ御規則嚴重ニ相守誓テ陸軍ニ從事可仕候依テ保證人連署此段奉願候也

何國何郡(市)(區)何町(村)產　道廳(府)(縣)何族(平民)職業(營業)戶主ニアラサレハ誰子弟等

何國何郡(市)(區)何町(村)何番地住(全戶寄留)
何國何郡(市)(區)何町(村)何番地單身寄留　姓　名印
年號月日生　明治二十八年月何年何箇月

身元保證人
道廳(府)(縣)何族(平民)
何國何郡(市)(區)何町(村)何番地(寄留)
年號月日　姓　名印
同
同

第何師團長(爵)姓名殿　同

追テ左ノ通希望致候也

受驗外國語學　何英佛獨ノ內一種ニ限ル

入隊兵種隊號　第一希望　近衛(第何師團)何歩、騎、野戰砲、要塞砲、工、兵第聯(大)隊
第二希望　何……

前書之趣調査候處相違無之候也

道廳(府)(縣)島司郡(市)(區)長　姓　名印

前書之通相違無之候也

地方長官　官姓　名印

第二號書式

士官候補生願

某儀

士官候補生志願候間御採用被下度此段奉願候也

隊號(所管)

官(兵)(卒)　姓　名印

年號月日生
明治廿八年十一月何年何箇月

年號月日

第何師團長(爵)姓名殿

追書第一號書式ニ同シ

第三號書式

陸軍幼年學校生徒願

某儀

陸軍出身志願ニ付幼年學校生徒ニ御採用被下度御許可相成入校ノ上ハ御規則嚴重ニ相守誓テ陸軍ニ從事可仕且本人身上ノ儀ハ何事ニ依ラス身元保證人ニ於テ一切引受可申候依テ身元保證人連署此段奉願候也

道廳(府)(縣)何族(平民)職業(營業)
戸主ニアラサレハ誰子弟等
姓　名印

年號月日生
明治二十八年八月何年何箇月

何國何郡(市)(區)何町(村)番
何國何郡(市)(區)何町(村)何番地住(全戸寄留)
何國何郡(市)(區)何町(村)何番地單身寄留

身元保證人

道廳(府)(縣)何族(平民)
何國何郡(市)(區)何町(村)何番地住(寄留)
姓　名印

年號月日

同

同

監軍(爵)姓　名殿　同

追テ何(英佛獨ノ內一種)ノ國語學受驗希望候也

前書之趣調査候處相違無之候也

道廳(府)(縣)島司郡(市)(區)長　姓名印

前書之通相違無之候也

地方長官官姓　名印

第四號書式(書式ニ示ス外履歷ニ係ル者アルトキハ悉ク記載スヘシ)

戸籍及履歷書

陸軍部內ノ志願者ハ本書式姓名ノ右ニ所管隊號ヲ肩書シ及其上ニ官等ニ記載スヘシ

道廳(府)(縣)何族(平民)職業(營業)

戸主ニアヲサレハ誰子弟等

何年何月種痘(天然痘)

戸籍寫(　　姓　名

一父母(養父母)　何某存(亡)(幼年學校生徒志願者ニシテ將校竝ニ之ニ相當スル高等官ノ戰死或ハ公務ニ依リ死亡シタル者ノ孤兒ハ父何官姓名何年何月何日戰死何々ニ依リ死亡)

一祖父母　同　同　右ニ準ス

此他兄弟(仕官シアル者ハ其官職名ヲ記入スヘシ)姉妹等在籍ノ者ハ皆之ニ準シテ記載スヘシ

履歷書

一何年月日任(免)何官(何職命免)何官廳

一何年月日ヨリ何年月日マテ何學校會社何職ニ從事ス

一何年月日ヨリ何年月日マテ何々研究ノ爲メ何國(外ヲ云)ニ在留

一何年月日ヨリ何年月日マテ何學校ヘ入學何學修業(卒業)

一何年月日徵兵(士官候補生、幼年學校生徒、一年志願兵、教導團生徒、海軍兵學校生徒等)ノ撿査ヲ受ケ體格(學科)ニ合格セス

一何年月日何ニ依テ賞典何々、罰何々

右之通相違無之候也

本人　姓　名　印

陸軍部内ノ志願者ニ在テハ身元保証人ヲ要セス又本人姓名ノ上ニ官等ヲ記載スヘシ

身元保證人　姓　名　印

同

第五號書式

誕生證書

道廳(府)(縣)何國何郡(市)(區)何町(村)何番地住

何族(平民)職業

戸主ニアラサレハ誰子弟等

年號月日出生　姓　名

右之通誕生年月日戸籍簿ニ照シ相違無之候也

本籍市(區)(町)(村)長姓　名　印

第六號書式　證券印紙貼用　(官費生徒ヲ命セラレタル者)

陸軍幼年學校生徒入校證書

某　儀

今般幼年學校生徒被命候ニ付テハ御規則嚴重ニ相守リ誓テ陸軍ニ從事可仕且本人身上ノ儀ハ何事ニ依ラス身元保證人ニ於テ一切引受可申候依テ身元保證人連署證書如斯候也

本人

道廳(府)(縣)何族(平民)職業

戸主ニアラサレハ誰子弟等

何國何郡(市)(區)何町(村)産

何國何郡(市)(區)何町(村)何番地住(全戸寄留)

姓　名　印

年號月日生

明治二十八年八月何年何箇月

身元保證人

道廳(府)(縣)何族(平民)何官(何會社員

何職業何營業等)

何國何郡(市)(區)何町(村)何番地住寄留)

年號月日　姓　名　印

陸軍幼年學校長姓　名殿

同
同
同

前書之趣調査候處相違無之候也

道廳(府)(縣)島司郡(市)(區)長姓　名印

第七號書式　（證券印紙貼用　半官費生徒若クハ自費生徒ヲ命セラレタル者）

陸軍幼年學校生徒入校證書

某　儀

今般幼年學校生徒被命候ニ付テハ御規則嚴重ニ相守リ審テ陸軍ニ從事可仕且入校中ノ費用ハ御規則ノ通上納可致ハ勿論其他本人身上ノ儀ニ付何事ニ依ラス身元保證人ニ於テ一切引受可申候依テ身元保證人連署證書如斯候也

本　人
道廳(府)(縣)何族(平民)職業
戸主ニアラサレハ雖子弟等
戸主ニアラサレハ雖地住　全戸寄留　姓　名　印
年號月日生
明治廿八年十一月何年何個月

何國何郡(市)(區)何町村番地住
何國何郡(市)(區)何町村何番地住　全戸寄留

身元保證人
道廳(府)(縣)何族(平民)何官(何會社員、何職業、何營業等)
何國何郡(市)(區)何町(村)何番地住(留寄)
姓　名　印
同
同　同

年號月日

陸軍幼年學校長姓　名殿

前書之趣調査候處相違無之候也

道廳(府)(縣)島司郡(市)(區)長姓　名印

朕海軍兵學校條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十六年十一月二十九日

海軍大臣伯爵　西郷從道

勅令第二百十七號

海軍兵學校條例

第一條　海軍兵學校ハ海軍將校ト爲ルヘキ生徒ヲ教育スル所トス

第二條　海軍兵學校ノ學科ハ砲術、水雷術、運用術、航海術、機關術、及普通學トス

第三條　生徒ノ學年ハ四箇年トス但戰時又ハ時變ニ際シテハ短縮スルコトアルヘシ

第四條　海軍兵學校ニ練習船ヲ附屬セシムルコトヲ得

第五條　海軍兵學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長	海軍大佐	一人
副官	海軍大尉	二人　内一人ハ教官ヲ以テ兼補ス
教頭	海軍少佐	一人
砲術教官	海軍少佐	三人
水雷術教官	海軍少佐	一人
運用術教官	海軍大尉	一人
航海術教官	海軍少佐	一人
機關術教官	海軍大尉	二人
	海軍機關少佐若クハ大機關士	一人
	海軍大機關士	一人
	海軍大技士	一人
普通學教官	海軍教授	七人　教官ヲ以テ兼補ス
監事長	海軍少佐	一人
監事	海軍大尉	九人　内八人ハ教官ヲ以テ兼補ス
軍醫長	海軍々醫少監	一人
軍醫	海軍大軍醫 海軍少軍醫	一人 一人
主計長	海軍大主計	一人
主計	海軍少主計	一人

本條砲術、水雷術、運用術、航海術教官ノ内一人ハ教頭ヲ以テ之ニ兼補ス

本條定員ノ外本職アル者ヲシテ教官ニ兼務セシムルコトヲ得

第六條　校長ハ海軍大臣ニ隷シ校務ヲ管理シ紀律ヲ維持シ及生徒教育ノ責ニ任ス

第七條　校長事故アルトキハ教頭其職務ヲ代理ス

第八條　副官ハ校長ノ命ヲ受ケ庶務ヲ掌理ス

第九條　教頭ハ校長ノ命ヲ承ケ教授ノ事ヲ監督ス

第十條　教官ハ教頭ノ命ヲ承ケ各學科ノ教授ヲ擔任ス

第十一條　監事長ハ校長ノ命ヲ承ケ生徒ヲ監督シ其ノ紀律ヲ維持シ及其ノ體育ノ事ヲ掌ル

第十二條　監事ハ監事長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十三條　軍醫長ハ校長ノ命ヲ承ケ醫務衛生ノ事ヲ掌ル

第十四條　軍醫ハ軍醫長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十五條　主計長ハ校務ノ命ヲ承ケ會計給與ノ事ヲ掌ル

第十六條　主計ハ主計長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十七條　第五條ニ掲クル職員ノ外左ノ諸員ヲ置キ上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

海軍上等兵曹　教員　三人

海軍機關師　教員　一人

海軍下士　二十八人　内十八人ハ教員

海軍書記　五人

海軍卒　六十人

第十八條　生徒ハ年齡滿十六年以上十九年未滿ニシテ海軍將校タラントヲ志願スル者ニ就キ身體檢査及學術試驗ヲ爲シ合格シタル者ヨリ其ノ成績順序ニ從ヒ所要ノ人員ヲ採用ス

第十九條　左ノ諸項ノ一ニ該ル者ハ生徒ニ採用セス

一　有妻ノ者

二　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者及賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者

三　復權ヲ得サル家資分散者破產者及身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者若クハ其ノ相續人

第二十條　生徒ノ召集及檢查格例ハ每年海軍大臣之ヲ告示ス

第二十一條　生徒ハ入校ノ日ヨリ海軍兵籍ニ編入ス

第二十二條　生徒ハ情願ヲ以テ退校スルコトヲ得ス

第二十三條　生徒ハ左ノ諸項ノ一ニ該ルトキハ退校セシム

一　品行不良或ハ怠惰ニシテ訓戒ヲ加フルモ改悛セサル者

二　試驗ノ成績不良ニシテ卒業ノ目的ナキ者

三　傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ先途役務ニ堪ヘ難シト認ムル者

附則

第二十四條　本令ハ明治二十六年十二月二十日ヨリ施行ス但明治二十六年十二月三十一日マテハ機關生徒ヲ置クコトヲ得

朕海軍機關學校條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十六年十一月二十九日

勅令第二百十八號

海軍大臣伯爵西鄕從道

海軍機關學校條例

第一條　海軍機關學校ハ之ヲ橫須賀ニ置キ海軍機關官ト爲ルヘキ生徒ヲ敎育シ竝ニ海軍少機關士候補生ニ技術ヲ專修セシムル所トス

第二條　海軍機關學校ノ學科ヲ本科及專科ノ二種トス

本科ハ生徒ノ修ムルモノトシ專科ハ造船、造機及造兵ノ三科ニ別チ本科卒業後其ノ科ニ特選セラレタル海軍少機關士候補生ノ修ムルモノトス

第三條　專科ヲ修ムル海軍少機關士補候生ヲ專科生ト稱ス

第四條　生徒ノ學年ハ四箇年トシ專科生ノ學年ハ二箇年トス但戰時若

クヘ時變ニ際シテハ短縮スルコトアルヘシ

第五條　海軍機關學校ニ工場ヲ置キ實習ノ用ニ供ス

第六條　海軍機關學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長	海軍機關大監	一人
副官	海軍大機關士	一人
教頭	海軍機關少監	一人
教官	海軍機關少監	一人（教頭ヲ以テ兼補ス） 四人（海軍大機關士）
	海軍教授	四人
監事長	海軍機關少監	一人（教頭ヲ以テ兼補ス）
監事	海軍大機關士	四人（教官ヲ以テ兼補ス）
軍醫長	海軍大軍醫	一人
主計長	海軍大主計	一人
主計	海軍少主計	一人

前項定員ノ外本職ヲ有スル者ヲシテ教官ニ兼務セシムルコトヲ得

第七條　校長ハ海軍大臣ニ隷シ校務ヲ管理シ紀律ヲ維持シ及教育ノ實ニ任ス

第八條　校長事故アルトキハ教頭其ノ職務ヲ代理ス

第九條　副官ハ校長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

第十條　教頭ハ校長ノ命ヲ承ケ教授ノ事ヲ監督ス

第十一條　教官ハ教頭ノ命ヲ承ケ各學校ノ教授ヲ擔任ス

第十二條　監事長ハ校長ノ命ヲ承ケ專科生及生徒ヲ監督シ其ノ紀律ヲ推持シ及體育ノ事ヲ掌ル

第十三條　監事ハ監事長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十四條　軍醫長ハ校長ノ命ヲ承ケ醫務衛生ノ事ヲ掌ル

第十五條　主計長ハ校長ノ命ヲ承ケ會計給與ノ事ヲ掌ル

第十六條　主計ハ主計長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十七條　第六條ニ掲クル職員ノ外左ノ諸員ヲ置キ上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

海軍機關師　教員　二人

海軍下士　教員　四人

海軍書記　三人

海軍技手　教員　十一人內七人ハ兼務

第十八條　生徒ハ年齡滿十六年以上十九年未滿ニシテ海軍機關官タランコトヲ志願スル者ニ就キ身體撿査及學術試驗ヲ爲シ合格シタル者ヨリ其ノ成績順序ニ從ヒ所要ノ人員ヲ採用ス

第十九條　左ノ諸項ノ一ニ該ル者ハ生徒ニ採用セス

一　有妻ノ者

二　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者及賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者

三　復權ヲ得サル家資分散者破產者及身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者若クハ其ノ相續人

第二十條　生徒ノ召集及撿査格例ハ每年海軍大臣之ヲ告示ス

第二十一條　生徒ハ入校ノ日ヨリ海軍兵籍ニ編入ス

第二十二條　生徒ハ情願ヲ以テ退校スルコトヲ得ス

第二十三條　生徒ハ左ノ諸項ノ一ニ該ルトキハ之ヲ退校セシム

一　品行不良或ハ怠惰ニシテ訓戒ヲ加フルモ改悛セサル者

二　試驗ノ成績不良ニシテ卒業ノ目的ナキ者

三　傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ先途役務ニ堪ヘ難シト認ムル者

第二十四條　專科生ハ須要ニ應シ海軍少機關士候補生ヨリ海軍大臣之ヲ特選ス

第二十五條　專科生ノ學用品ハ自辨トス但授業ニ要スル書籍及器械等ハ其ノ種類ニ依リ貸與スルコトアルヘシ

第二十六條　海軍機關學校ニ機關工練習所ヲ附屬セシム

第二十七條　機關工練習所ハ掌機工及掌鑵工ト爲ルヘキ機關手及火夫ヲ教育スル所トス

第二十八條　機關工練習所ニ左ノ職員ヲ置ク

長　一人　海軍機關少監

教官　三人　海軍大機關士

部長　三人　海軍大機關士ヲ以テ繰補ス

第二十九條　機關工練習所長ハ校長ノ命ヲ承ケ所內一切ノ事務ヲ管理シ紀律ヲ維持シ及教育ヲ責ニ任ス

第三十條　機關工練習所教官ハ所長ノ命ヲ承ケ各學科ノ教授ヲ擔任ス

第三十一條　部長ハ所長ノ命ヲ承ケ部員ノ紀律ヲ維持シ其ノ行狀技倆ヲ熟知シ且部員ニ係ル事務ヲ掌理ス

第三十二條　第二十八條ニ揭ケタル職員ノ外機關工練習所ニ左ノ諸員ヲ置キ上官ノ命ヲ承ケ服務ヲ

海軍機關師　教員　三人

海軍下士　六人內三人教員

海軍卒　九人

第二十三條　機關工練習所ニ於テ教育スル海軍機關手及火夫ハ機關工練習生トス

第三十四條　機關工練習生ト爲ルヘキ者ハ海軍機關手及三等火夫以上ニシテ左ノ諸項ニ適合スル者タルヘシ

一　年齡三十五年未滿ニシテ身體强健ナル者

二　一箇年以上海上勤務ニ服シタル者但四等火夫ヨリ起算ス

三　品行方正ニシテ技能アリ掌機工若クハ掌鑵工タルニ堪フヘキ者

四　卒業後七箇年間現役ニ服スヘキ者

五　試驗ニ合格シタル者

第三十五條　機關工練習生卒業シタルトキハ掌鑵工證狀若クハ掌鑵工

證狀ヲ授與ス其ノ證狀ハ試驗ノ成績ニ依リ各二等ニ分ツ

前項ノ證狀ヲ得タル者ハ掌機工又ハ掌繼工ト稱ス

第三十六條　掌機工及掌繼工ニハ臂章ヲ附與シ且加俸ヲ給ス

第三十七條　海軍機關學校ニ技手練習所ヲ附屬セシム

第三十八條　技手練習所ハ鎮守府造船部及海軍造兵廠ノ職工ニシテ造船造機及造兵ノ技手出身志願者ヲ生徒ト爲シ之ヲ教育スル所トス

第三十九條　技手練習所ニ左ノ職員ヲ置ク

長	海軍少技監若クハ海軍大技士　一人
教官	海軍少技監若クハ海軍大技士　一人 海軍大技士若クハ海軍少技士　二人

長ハ所長ヨリ兼務ス

前項定員ノ外本職アル者ヲ以テ教官ニ兼補スルコトヲ得

第四十條　技手練習所長ハ校長ノ命ヲ受ケ所內一切ノ事務ヲ管理シ紀律ヲ維持シ及教育ノ責ニ任ス

第四十一條　技手練習所教官ハ所長ノ命ヲ承ケ各學科ノ教授ヲ擔任ス

第四十二條　第三十九條ニ揭クル職員ノ外技手練習所ニ教員トシテ技手二人ヲ置ク

第四十三條　技手生徒ト爲ルヘキ者ハ左ノ諸項ニ適合スル者タルヘシ

一　年齡滿二十一年以上三十年未滿ノ者

二　品行方正ニシテ將來技手タルニ堪フヘキ見込アル者

三　鎮守府造船部及海軍造兵廠ニ於テ三百日以上現業ニ服シタル者

四　身體檢查及學術試驗ニ合格シタル者

五　卒業後滿十箇年間海軍ニ從事スヘキ者

第四十四條　左ノ諸項ノ一ニ該ル者ハ技手生徒ニ採用セス

一　徵兵令第二十八條ニ該ル者

二　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者及賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者

三　復權ヲ得サル家資分散者破產者及身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ

辨償ヲ終ヘサル者若クハ其ノ相續人

第四十五條　拔手生徒ニシテ卒業證書ヲ有スル者ハ海軍拔手トナルヘキ資格アルモノトス

第四十六條　拔手生徒ハ情願ヲ以テ退校スルコトヲ得ス

第四十七條　第十七條第三十二條及第四十二條ニ掲クル職員ハ海軍機關學校及兩練習所ニ通シテ勤務セシムルコトヲ得

附　則

第四十八條　本令ハ明治三十六年十二月二十日ヨリ施行ス

第四十九條　明治二十三年勅令第二百五十三號海軍機關學校條例ハ本令施行ノ日ヨリ廢止シ該校練習生ハ此ノ際志願ニ依リ直ニ機關工練習生ニ採用ス

第五十條　海軍造船工學校官制ハ本令施行ノ日ヨリ廢止シ該校生徒ハ拔手生徒トス

朕陸軍教導團條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十三年三月二十五日

勅令第四十七號

陸軍教導團條例

第一條　陸軍教導團ハ華士族平民中歩兵、騎兵、砲兵（野戰砲兵）、工兵、輜重兵科下士ニ出身志願ノ者ヲ選拔シテ生徒トシ下士ニ必要ナル教育ヲ爲ス

第二條　幾年採用スヘキ生徒ノ人員ハ其時々陸軍大臣之ヲ定メ監軍ニ移ス

第三條　本團ニ本部歩兵二中隊、騎兵、砲兵（野戰砲兵）、工兵、輜重兵科ノ生徒隊竝病院ヲ置ク

第四條　本團ニ職員ヲ置ク左ノ如シ

團長　歩兵佐官

副官　大中尉

病院長　二等軍醫正

生徒隊長及中隊長　大尉

生徒隊附　中尉

歩兵生徒隊副官　中尉

軍醫

藥劑官

獸醫

軍吏

第五條　團長ハ監軍ニ隷シ本團ノ軍紀風紀ヲ維持シ教育一般ノ事ヲ總括シ且經理事務召募事務及人事ヲ統轄シ歩兵生徒隊長ヲ統ス

第六條　副官ハ團長ノ庶務ヲ掌リ其下ニ准士官下士及陸軍屬若干員ヲ置ク

第七條　病院ノ職務ハ別ニ定ムル所ニ據ル

第八條　軍醫ノ下ニ看護長藥劑官ノ下ニ藥劑手獸醫ノ下ニ蹄鐵工下長軍吏ノ下ニ書記ヲ置ク

第九條　騎兵砲兵（野戰砲兵）工兵輜重兵科ノ生徒隊長ハ團長ニ隷スト雖トモ各科專門ノ教育ニ就テハ尚ホ當該兵監ニ隷ス

第十條　各生徒隊長ハ教育ノ事ヲ掌リ士官准士官下士ヲシテ其諸科目ヲ分擔セシム

第十一條　生徒修業中ハ被服食料ハ官費トシ學科用書籍材料ハ官給若クハ貸與シ且手當金若干ヲ給ス

第十二條　本團生徒ノ學期ハ歩兵科ハ八月騎兵及輜重兵科ハ六月砲兵（野戰砲兵）及工兵科ハ四月ニ始リ各兵科ニ就キ其修業期限約ヲ左ノ如シ

歩兵科　十六箇月

騎兵科　十八箇月
砲兵科（野戰砲兵）　二十箇月
工兵科　二十箇月
輜重兵科　十八箇月

第十三條　本團生徒ノ教育ハ之ヲ分テ教授及訓育トシ其科目ハ歩兵科ニ在テハ團長騎兵、砲兵（野戰砲兵）、工兵、輜重兵科ニ在テハ各當該兵監ノ定ムル所ニ據ル

第十四條　生徒隊ノ內務ハ概ネ軍隊內務ノ規定ニ依ル

第十五條　生徒入團ノ上ハ自己ノ情願ヲ以テ退團スルヲ許サス而シテ必ス陸軍ニ從軍ノ決シテ他志ナキノ誓約ヲナサシム

第十六條　生徒修業中ハ一切歸省休暇ヲ許サス而シテ行狀不正或ハ軍紀ヲ違守セス或ハ屬ヲ法則ヲ犯シ又ハ傷痍疾病ニテ生徒タルニ堪ヘ難ク若クハ卒業ノ目的ナキ者ハ退團セシム但傷痍疾病ニ係ルモノハ醫官ノ診斷ニ依テ處分ス

第十七條　學期末ニ於テ生徒ノ終末試驗ヲ施行ス（事故アル者ハ試驗ヲ延期スルコトアリ）

此試驗ニ及第セシ者ニハ本團教則卒業証書ヲ附與シ二等軍曹ニ任ス

第十八條　各學期末ヨリ次學期迄ノ間ニ於テ中隊長及各生徒隊附ノ士官ヲ各本科ノ兵隊ニ派遣シ隊附勤務ヲ爲サシム

陸軍省令第二十五號

陸軍教導團生徒召募規則左ノ通改正ス

明治二十七年十二月十一日　陸軍大臣伯爵西鄕從道

陸軍教導團生徒召募規則

第一條　陸軍教導團生徒ハ年齡滿十八年以上二十五年以下ニシテ歩兵、騎兵野戰砲兵、工兵、輜重兵科ノ下士志願者中身體檢查學科試驗ノ成績ニ依リ所要人員ヲ採用ス

第二條　左ニ揭クル者ハ志願者タルヲ得ス但入團願書差出ノ後本條ノ事故ヲ生スル者アルトキハ島司郡市長（東京京都大阪ノ三市ニ在テハ區長以下之ニ倣フ）ハ速ニ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ報告シ同官ハ之ヲ教導團長ニ報告スヘシ

一　陸海軍現役、豫備役、後備役ニ在ル者

二　妻アル者

三　復權ヲ得サル家資分散者、破産者及身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者

四　禁錮ノ刑ニ處セラレタル者及賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者

五　前諸項ノ外素行修マラサル者

第三條　砲兵、工兵科ハ身長五尺二寸以上歩兵、騎兵、輜重兵科ハ五尺以上ニシテ體質強壯ナルヲ要ス

第四條　學科試驗科目左ノ如シ

一　讀書　日本外史又ハ日本政記ノ類（通讀）

二　作文　記事文（漢字交リ）及通俗文

但作文ヲ以テ作文ノ巧拙ヲ試驗ス

三　數學　整數四則分數、比例、開平、開立

試驗ハ一科毎ニ若干ノ點數ヲ與ヘ其總點數ヲ比較シテ優劣ヲ定ム但一科ニ落第スル者ハ假令總點數ニ於テ優等ナリト雖トモ採用セス

第五條　志願者ハ第一書式ノ願書ニ第二第三書式ノ履歴書及戸籍寫（各副本ヲ要セス）ヲ添ヘ召募ニ應スヘキ前年ノ九月三十日ニ町村長ノ奥書證印ヲ受ケ島司郡長ニ差出シ市ニ在テハ直ニ市長ニ差出スヘシ但父兄親族等一家ノ戸主ニシテ身元慥カナル二名ノ保證人ヲ要ス

島司郡市長ハ前項ノ願書ニ奥書證印ノ上第四書式ノ志願者連名簿及各自ノ里程調書（願路ニ基キ滊車路海陸路ノ區別ヲナシ若シ二道アルモノハ二道トモ取調ヲ要ス）ヲ添ヘ之ヲ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ送附シ同官ハ十月三十一日迄ニ其人名及希望兵科ヲ教導團長ニ通報スヘシ

第六條　大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ハ身體撿査及學科試驗ノ時日ヲ定メ教導團長及島司郡市長ニ通知シ島司郡市長ハ之ヲ本人ニ通達スヘシ

第七條　志願者ノ身體撿査及學科試驗ハ當該大隊區司令官又ハ警備隊區司令官其司令部所在地ニ於テ之ヲ行フ

其身體檢査ハ司令部最寄衞戍地在職ノ軍醫ヲ派シテ之ニ任セシムヘシ

カ爲メ大隊區司令官ハ檢査日割ヲ師團長ニ上申シ軍醫ノ派遣ヲ申請スヘシ但警備隊區ニ在テハ警備隊區司令官ヨリ警備隊司令官ニ請求スルモノトス

學科試驗ハ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官身體檢査合格者ニ就テ之ヲ爲スヘシ

第二項ノ軍醫ハ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ノ指揮ヲ受クルモノトス

志願者檢査場ヘノ往復旅費及滯在費ハ自辨トス

甲大隊區ノ志願者ニシテ居住地最寄ノ乙大隊區司令部ニ就テ身體檢査及學科試驗ヲ受ケンコトヲ出願スル者アルトキハ甲乙兩大隊區司令官協議ノ上之ヲ許可スルコトヲ得

第八條　學科試驗ノ問題ハ教導團長之ヲ作リ密封シテ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ送付スヘシ

第九條　志願者ハ檢査時日ニ後レサル樣當該大隊區司令部又ハ警備隊區司令部ニ出頭シテ指揮ヲ受クヘシ疾病其他ノ事故ニ依リ當日出揃ヒ難キ者アルモ之カ爲メ時日ヲ延スコトナシ

第十條　志願者試驗ヲ受ケタル後轉住スルトキハ速ニ舊住地ノ大隊區司令部又ハ警備隊區司令部ヲ經テ教導團ニ屆出且ツ之ト同時ニ新住地ノ大隊區司令部又ハ警備隊區司令部ヘモ屆出ヘシ

又止ムヲ得サル事故ニ由リ志願取消ヲ爲シタルトスル者ハ大隊區司令部又ハ警備隊區司令部ヲ經テ其願書ヲ教導團ヘ差出スヘシ

第十一條　大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ハ學科試驗ヲ終レハ受驗者ノ答解書ヲ取纏メ之ニ第五條ノ島司郡市長ヨリ受領シタル書類ヲ添ヘ連名簿ヲ各自希望ノ兵科ヲ記入シテ十二月三十一日迄ニ教導團長ニ送付スヘシ

第十二條　教導團長ハ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ヨリ送付スル所ノ答解書ヲ審査シ採用スベキ者ト否トヲ決定シ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官島司郡市長及町村長ヲ經テ之ヲ本人ニ通達シ其採用者ニハ入團ヲ命ズベシ

第十三條　入團ノ達ヲ受ケタル者ニハ其居住地（受驗當時ノ住所ヲ云フ）ヨリ教導團迄ノ里程ニ應シテ舟車馬料及日當ヲ當該監督部ヨリ支給ス但自己ノ便宜ヲ以テ入團期日前早着シ滯在スル者アルモ日當ヲ增給スルノ限リニアラズ

第十四條　入團ヲ命セラレタル者居住地出發前疾病其他ノ事故ヲ生シ入團延期ヲ出願セントスルトキハ入團期日ヨリ何日間猶豫ノ旨（疾病ハ醫師ノ診斷書其他ハ市町村長ノ証明書ヲ添付スベシ）ヲ記載シ其願書ヲ當該大隊區司令部又ハ警備隊區司令部ヲ經テ教導團長ニ差出スベシ又入團途中ニ於テ同一ノ事故ヲ生シ期日ニ着團シ難キトキハ電報若クハ郵便ヲ以テ教導團長ニ屆出事故止ミ着團ノ節疾病ハ醫師ノ診斷書其他ハ其地ノ市町村長若クハ船長等ノ證明書ヲ以テ更ニ屆出ヘシ

前項ニ依リ入團期日後十日以內ニ到着セサル者ハ除名スヘシ

第十五條　入團ノ達ヲ受ケタル者故ナク出發ヲ遷延シ若クハ無屆ニテ期日ニ到着セス或ハ自己ノ不注意ヨリシテ期日ニ後レタル者ハ採用セサルノミナラス支給セシ旅費ヲ返納セシムヘシ

第十六條　採用スヘキ者着團スルトキハ再ヒ身體檢查ヲ行フヘシ此檢查ニ於テ不合格ノ者ハ歸鄉セシメ其旨ヲ教導團ヨリ當該大隊區司令部又ハ警備隊區司令部ニ通報ス但自己ノ不攝生等ヨリ發病スルモノト認ムルトキハ之ニ歸鄉旅費ヲ給セサルノミナラス入團旅費ヲ返納セシムルモノトス

第十七條　生徒入團ノ上ハ教導團條例第十五條ニ據リ左ノ誓約ヲナサシム

誓文

今般陸軍出身志願ニ付教導團生徒奉願候處御許容相成候ニ付テハ自今御規則嚴重ニ相守誓テ陸軍ニ從事可仕且御定規ノ服役年間ハ假令疾病ト雖トモ醫官ノ診斷ニ依ラス シテ免役ヲ請願致候等ノ儀毛頭仕間敷候依テ誓文如件

年號月日

姓　名　印

附則

第十八條　市町村制ヲ實施セサル地方ニ在テハ本規則中市町村長ノ職務ハ區戸長ニ於テ之ヲ行フヘシ

第十九條　沖繩縣下ノ志願者ニ關シ大隊區司令官ノ取扱ニ係ルモノハ當分ノ內沖繩分遣歩兵隊長之ヲ取扱フヘシ

第二十條　明治二十八年召募ノ者ニ限リ第五條ノ願書差出期限ヲ一月十五日第十一條ノ書類送付期限ヲ二十五日迄ト シ第五條ノ人名連

報期限ハ適宜ト ス但第五條ノ願書其他ノ書類ハ島司郡市長ヨリ一月二十五日迄ニ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ送付スヘシ

第一號書式　用紙美濃紙

教導團入學願

陸軍出身志願ニ付教導團生徒ト シテ入學仕度候間御試驗ノ上御採用被下度入團ノ上ハ御規則嚴重ニ相守リ誓テ陸軍ニ從事可仕本人身上ノ儀ハ何事ニ依ラス身元保證人ニ於テ引受可申依テ履歷書及戸籍寫相添保證人連署此段奉願候也

年號月日

府(縣)何族(平民)職業

戸主ニ非レハ某子弟等

何國何郡(市)何町(村)

產

第一希望何科　第四希望何々

第二希望何々　第五希望何々　姓　名　印

第三希望何々

何國何郡(市)何町(村)
何番地住(寄留)　　年號月日生　明治何年四月何年何ヶ月

身元保證人

府(縣)何族(平民)　　姓　　名印

何國何郡(市)何町(村)何番地住(寄留)　　姓　　名印

同上　　姓　　名印

同上　　姓　　名印

同上　　姓　　名印

陸軍教導團長官姓名殿

右之通願出候ニ付取調候處相違無之候也

府(縣)市(郡町村)長　　姓　　名印

前書之通相違無之候也

府(縣)島司(郡長)　　姓　　名印

第二號書式　用紙美濃紙

履歷書　書式ニホス外履歷ニ係ルモノハ悉ク記載スヘシ

府(縣)何族(平民)職業

戶主ニ非ヲレハ某子弟等

姓　　名印

一何年何月種痘(天然痘)

一陸海軍現役、豫備役、後備役ニアラス

一妻ナシ

一家資分散ノ宣告又ハ身代限ノ處分ヲ受ケシコトナシ
(家資分散ノ宣告ヲ受ケシモ既ニ復權ヲ得タリ又ハ身代限ノ處分ヲ受ケシモ負債ノ辨償ヘ既ニ完了ス)

一禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナシ
及賭博犯ノ處分ヲ受ケシコトナシ

一何年月日任何官(免本官)　何省(府)(縣)(廳)等

一何年月日何職被申付(何職被免)　何省(府)(縣)(廳)等

一　何年月日ヨリ何年月日迄何學校(竝)入學何科卒業(何學修業)

一　何年月日ヨリ何年月日迄何學研究(商業)ノ爲メ何國(外國ナラハ云ニ及ハス)ニ在留

一　何年月日徴兵(士官候補生、幼年學校生徒、教導團生徒、海軍兵學校生徒等)ノ檢査ヲ受ケ體格(身幹胸圍体重不足等)學科ニ合格セス

一　何年月日何々ニ依テ賞典何々下賜

一　何年月日何々ノ科ニ依リテ何爵申付ヲル

右之通相違　之候也

年號月日

本人　姓　名　印

身元保證人

姓　名　印

姓　名　印

戸籍寫戸籍中現在スル者ノミヲ記載スヘシ

一　祖父　某

一　祖母　某

一　父　某

一　母　某

一　兄　某　何年何月日生

一　弟　某　同右

一　姉　某　同右

一　妹　某　同右

右之通相違無之候也

年號月日

本人　姓　名　印

身元保證人

第四號書式　用紙半紙

陸軍教導團生徒志願者連名簿　何縣何郡(市)

摘要	府縣族籍職業	年齡	姓名	印
		何年四月調	姓名	印

朕要塞砲兵幹部練習所條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十七年四月五日

勅令第三十八號

陸軍大臣伯爵大山巖

要塞砲兵幹部練習所條例

第一條　要塞砲兵幹部練習所ハ要塞砲兵隊ノ將校及下士ヲ分遣シテ學生トナシ射撃術觀測術及戰術ヲ訓練シ其演習ニ關スル教則ヲ一定ナラシメ常ニ射撃術觀測術及戰術ヲ研究シ教育一般ノ改良ニ圖リ且ツ生徒中隊ヲ置キ要塞砲兵ニ充ツヘキ下士ヲ教育スル所トス

第二條　練習所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長　砲兵佐官

副官　砲兵大中尉

教官　砲兵少佐砲兵大尉砲兵中尉

軍醫
軍吏

第三條　所長ハ要塞砲兵監ニ隷シ所務ヲ總理シ學術進歩ノ責ニ任ス

第四條　副官ハ庶務ヲ掌リ其下ニ准士官及下士ヲ置ク

第五條　教官ハ學術ノ教授ヲ擔任シ射撃彈道觀測術及戰術ヲ調査研究シ且ツ副官及生徒中隊ノ中隊長中隊附ヲ兼ヲシム

第六條　教官ノ下ニ助教ヲ置キ准士官及砲兵下士ヲ以テ之ニ充テ生徒中隊附ヲ兼ヲシメ所内ニ居住セシム

第七條　軍醫ノ下ニ看護長軍吏ノ下ニ書記ヲ置ク

第八條　學生ノ學期ハ毎年二回トシ第一期ハ九月初旬ニ始リ十二月下旬ニ終リ第二期ハ二月初旬ニ始リ五月下旬ニ終ルモノトス

第九條　學生ノ人員ハ其時々監軍之ヲ定メ陸軍大臣之ヲ告達ス

第十條　學生ハ本中尉或ハ二等軍曹ヲ以テ之ニ充ツ但時宜ニ依リ少佐ヲ以テ學生トナスコトアルヘシ

第十一條　學生分遣ノ告達アレハ師團長ハ部下ノ要塞砲兵聯隊長（獨立大隊及中隊ナレハ其隊長警備隊ニアリテハ其司令官以下倣之）ニナシテ適任ノ者ヲ撰定セシメ而シテ入所期十日前マテニ其兵籍寫ニ考科表ヲ添ヘ要塞砲兵幹部練習所長ニ送達スヘシ

第十二條　學生將校ハ所外ニ其下士ハ所内ニ居住セシム

第十三條　學生所要ノ兵器書籍器具雜具消耗品ハ貸與又ハ支給スルコトアルヘシ其下士ニアリテハ被服裝具ヲ携帶セシム

第十四條　學生ノ業務ニ關スル願届ハ所長ニ其他ハ所屬長官ニ差出スモノトス

第十五條　學生ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退所スルヲ許サス但疾病其他ノ事故ヲ以テ修得ノ目的ナキ者ハ退所セシムルコトアルヘシ

第十六條　學期末ニ於テ所長ハ各教官ヲ集メ學生修學ノ成績ヲ調査シ

以テ修得證明書ヲ作リ所長之ニ署名捺印シ要塞砲兵監ニ呈シ又別ニ一本ヲ製シ師團長ヲ經テ本人所屬ノ隊長ニ交付スルモノトス

第十七條　教育上軍隊ヲ要スルコトアルトキハ所長其理由ヲ悉シテ之ヲ要塞砲兵監ニ具申スヘシ

第十八條　生徒ハ華士族平民中要塞砲兵下士ニ出身志願ノ者ヲ撰拔シテ之ヲ採用ス

第十九條　毎年採用スヘキ生徒ノ人員ハ其時々陸軍大臣之ヲ定メ監軍ニ移ス

第二十條　生徒召集ノ撿査格例ハ其時々監軍之ヲ定メ陸軍大臣ニ移ス

第二十一條　生徒ノ修業期限ハ毎年概ネ四月ニ始マリ翌年十一月ニ終ルモノトス

第二十二條　生徒入學ノ上ハ自己ノ情願ヲ以テ退學スルヲ許サス必ス陸軍ニ從事シ決シテ他志ナキノ誓約ヲナサシム

第二十三條　生徒修業中ハ一切歸省休暇ヲ許サス其行狀不正或ハ軍紀ヲ遵守セス或ハ屢法則ヲ犯シ又ハ傷痍疾病ニテ生徒タルニ堪ヘ難ク若クハ卒業ノ目途ナキ者ハ退學セシム但傷痍疾病ニ係ル者ハ醫官ノ診斷ニ依テ處分ス

第二十四條　學期末ニ於テ卒業試驗ヲ施行シ及第セシ者ニハ卒業證書ヲ附與シ二等軍曹ニ任ス

事故ノ爲メ試驗ヲ受クル能ハサルモノハ延期スルコトヲ得

第二十五條　前條二等軍曹ニ任スル者ノ兵役期限其他取扱ハ陸軍各兵科現役下士補充條例第二條及第七條乃至第十三條ヲ適用ス

第二十六條　生徒中隊ノ內務ハ概ネ軍隊內務書ノ規定ニ據ル

第二十七條　毎年學期ノ終ヨリ次學期ノ始メマテニ於テ教官將校ノ內若干員ヲ本科ノ兵隊ニ派遣シ隊附勤務ヲ爲サシム

朕憲兵條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治廿二年三月二十八日

内閣總理大臣伯爵黒田清隆
内務大臣伯爵松方正義
陸軍大臣伯爵大山巖
海軍大臣伯爵西郷從道
司法大臣伯爵山田顯義

勅令第四十三號

憲兵條例

總則

第一條　憲兵ハ陸軍兵ノ一ニシテ陸軍大臣ノ管轄ニ屬シ軍事警察行政警察司法警察ヲ掌ル其戰時若クハ事變ニ際シ特ニ要スル服務ハ別ニ之ヲ定ム

第二條　憲兵ノ職掌軍事警察ニ係ル事ハ陸海軍大臣ニ隷シ行政警察ニ係ル事ハ內務大臣ニ隷シ司法警察ニ係ル事ハ司法大臣ニ隷ス

第三條　憲兵ハ行政警察司法警察ニ係ル事件ニ付警視總監府縣（東京府ヲ除ク）知事及檢査官ノ指示ヲ受ク

第四條　憲兵ハ其職務ニ於テ正當ノ職權ヲ有スル者ヨリ要求スルトキハ直ニ之ニ應スヘシ

第五條　憲兵ハ左ニ記載スル場合ニアラサレハ兵器ヲ用ユルコトヲ得ス

第一　暴行ヲ受クルトキ

第二　其占守スル所ノ土地又ハ委托セラレタル場所若クハ人ヲ防衛スルニ兵力ヲ用ユルヲ以外他ニ手段ナキトキ又ハ兵力ヲ以テセサレハ其抗抵ニ勝ツ能ハサルトキ

第六條　必要ノ場合ニ際シ陸軍大臣參謀本部長海軍大臣軍令部長協議シテ憲兵ヲ一時其管轄地外ニ分派スルコトヲ得

配置編制

第七條　憲兵ハ各府縣ニ配置ス其管轄地ハ府縣ノ管轄區域ニ依ル

第八條　東京ニ憲兵司令部ヲ置キ各府縣ニ憲兵隊ヲ置キ區分シテ各管區ニ憲兵分隊ヲ置キ各巡察區ニ憲兵一伍若クハ數伍ヲ置ク

第九條　各府縣ノ憲兵隊ハ其管轄地ヲ分畫シテ憲兵巡察區ヲ定メ巡察區ヲ合セテ數箇ノ憲兵管區トス

第十條　憲兵管區ハ內務大臣憲兵司令官ニ諮問シテ之ヲ定メ巡察區ハ警視總監府縣知事（東京府ヲ除ク）憲兵隊長ニ協議シテ之ヲ定ムルモノトス

第十一條　憲兵司令部ノ職員左ノ如シ

憲兵司令官　憲兵大佐

副官　憲兵大中尉

軍吏　一二等軍吏

書記　憲兵下士
軍吏部下士
第十二條　憲兵隊ノ編制左ノ如シ

本部
隊長　憲兵中少佐
副官　憲兵大中尉
軍吏　二三等軍吏
下副官　憲兵曹長
書記　憲兵下士
軍吏部下士

分隊
分隊長　憲兵大中尉
書記　憲兵下士
伍長　憲兵下士
憲兵上等兵

第十三條　憲兵上等兵五名ヲ以テ一伍トシ數伍ヲ以テ一分隊トシ數分隊ヲ以テ一隊トナス
時宜ニ依リ二伍若クハ數伍ヲ乘馬兵トナス
第十四條　憲兵隊ハ地名ヲ冠シテ某憲兵隊ト稱ス

職務
第十五條　憲兵司令官ハ全國ノ憲兵隊ヲ統轄シ司令部ノ事務ヲ總理ス
第十六條　憲兵司令官非常若クハ緊要ノ事件アルヲ知リタルトキハ速ニ内務大臣陸軍大臣海軍大臣司法大臣ニ申報スヘシ
第十七條　憲兵司令官ハ軍紀風紀訓練教育職務服行ノ程度ヲ檢閲スル爲メ必要ト認ムル時機ニ於テ各憲兵隊ヲ巡視シ其景況ヲ陸軍大臣ニ申報スヘシ

第十八條　憲兵隊長ハ部下ヲ董督シ其勤務方法ヲ指定シ隊中ノ事務ヲ總理ス

第十九條　憲兵隊長ハ地方ノ情勢ヲ審ニシ非常若クハ緊要ノ事件ヲ知リタルトキハ速ニ警視總監府縣知事（東京府ヲ除ク）及其地所在ノ檢事長上席檢事ニ通報スヘシ

第二十條　憲兵分隊長ハ管區ノ長トナリ管内ノ情勢ヲ審ニシ部下ヲ指揮シ管區ノ事務ヲ處理ス又管内ノ事情ハ常ニ地方警察官ト相互諜報スヘシ

第二十一條　憲兵伍長ハ憲兵上等兵ノ勤務ヲ指揮監督シ且區内ヲ巡視シ其事情ヲ審ニスヘシ

第二十二條　憲兵上等兵ハ常ニ巡察區ヲ畫シテ巡察シ其事情ヲ審ニスヘシ但特ニ上官又ハ檢察官ノ命アルトキハ自他ヲ區畫スルノ限ニアラス

第二十三條　憲兵ノ勤務諸報告等ニ係ル細則ハ各主管大臣之ヲ定ム

第二十四條　憲兵士官以下補充ハ陸軍武官進級條例ニ據ルノ外各兵科士官下士ノ内ヨリ選任ス但二等軍曹ハ憲兵上等兵中一箇年以上其職務ニ服シタル者ヨリ選任スルコトヲ得

第二十五條　憲兵上等兵ハ現役豫備後及後備軍籍ニ在ル兵卒中志願ノ者ニシテ檢査合格ノ者ヨリ選用ス

第二十六條　憲兵下士上等兵ノ選任ニ係ル細則ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第二十七條　憲兵下士上等兵ハ任命ノ日ヨリ更ニ七箇年間現役ニ服スルモノトス

第二十八條　憲兵下士上等兵ハ服役滿期ノ後再服役ヲ請願スルカトヲ得再服後ハ三年ヲ以テ一期トシ年齡定限ニ至ルマテハ數次請願スル

コトヲ得

第二十九條　再服役ヲ請願スル者ハ現ニ所屬ノ部隊ニ於テスルモノトス其分隊ニ在テハ分隊長ト誓約シ憲兵隊本部ニ在テハ憲兵隊長ト誓約シ憲兵司令部ニ在テハ憲兵司令官ト誓約ス但分隊長憲兵隊長ニ在テハ憲兵司令官ノ認可ヲ請フヘシ

第三十條　再服役中轉隊若クハ轉職セシムルコトアリト雖モ從前ノ誓約ハ新ニ屬スル所ノ部隊長ニ移ルモノトス

第三十一條　服役期限既ニ滿ツルト雖モ戰時若クハ事變ニ際シテハ期限ヲ延スコトアルヘシ

第三十二條　服役終ルノ後ハ下士ハ前兵科ノ同等官ニ復任シ上等兵ハ前兵科ニ復シ後備役ニ編入シ通シテ十二箇年間服役セシムル者ハ之ヲ免除ス

第三十三條　憲兵下士上等兵服役中ハ自己ノ情願ヲ以テ免除セス但左ノ場合ニ於テハ特ニ之ヲ免除ス

第一　現役中本人ヲ要スルニアラサレハ一家ノ生計ヲ營ミ難キ事故ヲ生スルトキハ本人ノ願ニ依リ現役ヲ免ス

第二　現役中疾病若クハ傷痍ニ依リ現役ニ堪ヘ難キ者ハ其役ヲ免ス

第三　現役中疾病若クハ傷痍ニ依リ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ兵役ヲ免ス

第三十四條　前條第一項第二項ニ當ル者ハ下士ハ前兵科ノ同等官ニ復任シ憲兵科服役年月ヲ通算シ七箇年ニ滿タサル者ハ後備役ニ十二箇年ヲ過キタル者ハ之ヲ免除ス

第三十五條　憲兵下士上等兵其職務ヲ辱シムルニ因リ懲罰ノ處分ヲ受クルトキハ懲罰令第十五條ノ例ニ拘ハラス官職ヲ免スルコトヲ得

第三十六條　前條ニ依リ官職ヲ免シタル者及刑法又ハ懲罰令第十五條

ニ依リ官職ヲ失ヒ若クハ免ゼラルル者ハ前兵科ニ復シ兵卒トナル憲兵
科服役年月ヲ通算シ十二箇年ニ滿チサル者ハ其年數ニ從ヒ現役豫備
役又ハ後備役ニ服セシメ其十二箇年ヲ過ギタル者ハ之ヲ免除ス

第三十七條　第三十三條乃至第三十六條ニ當ル者アルトキハ憲兵司令
官ハ陸軍大臣ノ認可ヲ請ヒ現役又ハ兵役ヲ免ス

第三十八條　憲兵ノ糾校現役ヲ退キ豫備後備若クハ退役ニ入ルトキハ
原兵科ニ復スルモノトス其原兵科ナキモノハ歩兵科トス

附　則

第三十九條　此條例ハ明治二十二年四月一日ヨリ施行ス

各府縣ニ配置スル憲兵隊ハ東京太坂二府ヲ除クノ外他ノ府縣ハ漸次
之ヲ置キ其都度陸軍大臣之ヲ告示スヘシ

第四十條　當分ノ內憲兵少尉ヲ以テ分隊長ノ職ニ充ルコトヲ得

第四十一條　從前ノ憲兵卒ニシテ能ク其職務ニ適スル者ハ檢查ノ例ニ
依ラス憲兵上等兵ニ採用スルコトヲ得

陸達第百七十二號　明治三十二年十二月五日

憲兵下士上等兵補充細則別冊之通定ム

憲兵下士上等兵補充細則

第一條　憲兵下士及ヒ上等兵ノ補充ハ左ノ二項ニ恰當シタル者ヲ以テ

ス

一　品行方正志操確實

二　下士ハ滿二十三歳以上三十五歳迄上等兵ハ滿二十二歳以上三十

歳迄

第二條　各兵科ヨリ憲兵下士及上等兵ヲ補充スルハ現役及豫備後備ノ下士兵卒ニシテ二箇年以上現役ニ服シ補充撿査ニ合格シタル者ニ限ル

第三條　憲兵上等兵ヨリ下士ヲ補充スルニハ分隊長部下上等兵ニシテ

第二條第一項第二項ニ恰當ノ者ヲ選拔シ技能ノ優劣ニ依リ順序ヲ定

憲兵下士官候補者名簿及品行証明書ヲ整備シ毎年五月三十一日迄ニ之ヲ憲兵隊長ニ呈シ憲兵隊長ハ点検取捨ヲ加ヘ各分隊ニ通牒シ順序ヲ定メ下士候補者名簿ヲ製シ憲兵司令官ニ呈スヘシ

憲兵司令官ハ候補者名簿ヲ点検取捨ノ之ヲ陸軍大臣ニ呈シ認可ヲ受ケ各隊ノ欠員ニ応シ下等軍曹ニ任スヘシ

下士候補者ヲ以テ欠員ヲ補フニハ同隊ニ於テスルヲ例トス

第四條　各兵科ノ下士兵卒ヨリ憲兵ニ転科セントスル者ハ憲兵司令官ニ於テ人員ヲ陸軍大臣ニ上申シ陸軍大臣之ヲ告達スル所ニ依リ憲兵隊所在地ノ師管内ニ於テ之ヲ募集ス但各兵科ヨリ補充スルニハ補充ヲ要スル憲兵隊所在地ノ師管内ニ於テスルヲ例トス

第五條　前條ノ募集ニ応シタル者ハ師団長又ハ其ノ指揮官ニ於テ試験ノ上合格ト認メタル者ニ限リ各隊長ハ隊員ノ欠員ニ応シ憲兵司令官ニ於テ其人名ヲ取調ヘ其人名ヲ記載シタル履歴書ヲ添ヘ師団長及大隊区司令官ニ呈シ同官ヨリ之ヲ証明書ヲ添ヘ師団長及大隊区司令官ニ呈シ同官ヨリ之

憲兵司令官ハ候補者名簿ヲ点検取捨ノ之ヲ陸軍大臣ニ呈シ認可ヲ受ケ各隊ノ欠員ニ応シ下等軍曹ニ任スヘシ

下士候補者ヲ以テ欠員ヲ補フニハ同隊ニ於テスルヲ例トス

第四條　各兵科ノ下士兵卒ヨリ憲兵ニ転科セントスル者ハ憲兵司令官ニ於テ人員ヲ陸軍大臣ニ上申シ陸軍大臣之ヲ告達スル所ニ依リ憲兵隊所在地ノ師管内ニ於テ之ヲ募集ス但各兵科ヨリ補充スルニハ補充ヲ要スル憲兵隊所在地ノ師管内ニ於テスルヲ例トス

第五條　前條ノ募集ニ応シタル者ハ師団長又ハ其ノ指揮官ニ於テ試験ノ上合格ト認メタル者ニ限リ各隊長ハ隊員ノ欠員ニ応シ憲兵司令官ニ於テ其人名ヲ取調ヘ其人名ヲ記載シタル履歴書ヲ添ヘ師団長及大隊区司令官ニ呈シ同官ヨリ之ヲ証明書ヲ添ヘ師団長及大隊区司令官ニ呈シ同官ヨリ之

ノ下士假候補名簿及品行証明書ヲ製シ三月三十一日迄ニ之ヲ憲兵隊長ニ呈シ憲兵隊長ハ點檢取捨ヲ加ヘ各分隊ヲ通シテ順序ヲ定メ下士候補名簿ヲ製シ憲兵司令官ニ呈スヘシ

憲兵司令官ハ候補名簿ヲ點檢取捨シ之ヲ陸軍大臣ニ呈シ認可ヲ受ケ各隊ノ欠員ニ應シ下憲候補者ヲ二等軍曹ニ任ス

下士候補者ヲ以テ欠員ヲ補フニハ同隊ニ於テスルヲ例トス

第四條　各兵科ノ下士兵卒ヨリ憲兵下士及上等兵ノ補充ヲ要スルトキハ憲兵司令官ヨリ所要ノ人員ヲ陸軍大臣ニ上申シ陸軍大臣之ヲ告達スヘシ

但各兵科ヨリ補充スルニハ補充ヲ要スル憲兵隊所在地ノ師管内ニ於テスルヲ例トス

第五條　前條ノ告達アルトキハ師團長之ヲ各隊長大隊區司令官（歩兵聯隊長及大隊區司令官ニハ師團長ヲ經テ）ニ達シ各隊長大隊區司令官ハ志願者ヲ取調ヘ其人名士族（歩兵聯隊長及大隊區司令官ニハ師團長ヲ經テ）ニ呈シ同官ヨリ之ヲ憲兵司令官ニ送附スヘシ

各官廳ニ在テハ前項ニ準シ志願者ヲ取調ヘ其長官ヨリ人名簿及ヒ品行証明書ヲ憲兵司令官ニ送附スヘシ

第六條　憲兵司令官前條ノ書類ヲ受領スルトキハ其書類ヲ添ヘ憲兵隊長ニ達シ該隊副官又ハ分隊長ヲ各地ニ派遣シテ補充撿査ヲ行ハシムヘシ

其撿査ニ合格シタル者ハ副官又ハ分隊長其優劣ニ依リ順序ヲ定メ憲兵下士候補名簿又ハ憲兵上等兵候補名簿ヲ製シ撿査書類ト共ニ之ヲ憲兵隊長ニ呈シ憲兵隊長ハ點檢取捨ヲ加ヘ一師管ヲ通シテ順序ヲ定メ下士候補名簿又ハ上等兵候補名簿ヲ製シ憲兵司令官ニ呈スヘシ

憲兵司令官ハ候補名簿ヲ點檢取捨シ其下士候補名簿ハ豫メ陸軍大臣ノ認可ヲ受ケ所要ニ應シ候補名簿ノ順序ニ從ヒ憲兵下士又ハ上等兵ニ選任スヘシ但其任命ハ師團長其他ヲ長官ヲ經由スヘシ

第七條　憲兵下士上等兵補充撿査ハ体格及學科ノ二種トシ其學科ハ筆記及口述ノ二種トス但体格撿査ニ合格セサル者ハ學科ノ撿査ヲ行ハス

体格撿査ハ撿査場所在地ノ陸軍醫官ヲシテ從事セシムルヲ以テ憲兵司令官若クハ憲兵隊長ヨリ醫官所屬ノ長官ニ照會スヘシ

第八條　憲兵下士上等兵補充撿査格例及ヒ合格規定ハ憲兵司令官之ヲ定ス師團長各官廨長官ニ通知スヘシ

第九條　憲兵下士上等兵補充撿査施行期日ハ憲兵隊長ヨリ各隊長大隊區司令官及ヒ所屬長ニ通知スヘシ

第十條　憲兵下士上等兵補充撿査ノ場所ニ往復セルモノヽ旅費ハ總テ自辨トス

朕屯田兵條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十三年八月二十九日

勅令第百八十一號

屯田兵條例

第一條　屯田兵ハ屯田歩兵屯田騎兵屯田砲兵屯田工兵ヲ以テ編成シ北海道權要ノ地ニ配置シテ其警備ニ充ツ

第二條　屯田兵ハ兵農相兼スルノ制トス平常ハ給與ノ兵屋ニ居住シ軍事上ノ訓練及開墾耕稼ニ從事セシム

第三條　屯田兵ハ府縣ヨリ志願者ヲ召募シ本籍ヲ北海道ニ移シ家族ト共ニ移住セシム

第四條　屯田兵ノ服役期限ハ二十箇年ニシテ現役八箇年後備役十二箇年トス

後備服役中ハ戰時若クハ事變ニ際シ召集ス又平時ニ在テハ勤務演習ノ爲メ召集シ及簡閱點呼ヲ爲スヘシ

服役期限中滿四十歳ニ至リ又ハ死亡若クハ事故ニ由リ免役シタルトキヤ其家族中適當ノ男子ヲ擧テ兵役ノ殘期ヲ相續セシムヘキ若シ適當ノ男子ナキトキハ兵役ヲ免ス

屯田兵ニシテ召募ノ條件ニ違犯シ其他正當ノ理由ナクシテ兵役ノ義務ヲ履行セサルモノハ兵役ヲ免ス

第五條　後備役滿期後十箇年間補充兵役ニ服セシメ戰時若クハ事變ニ際シ召集ス

第六條　第四條第五條ノ各兵役年期ハ編入年ノ四月一日ヨリ起算ス

第七條　各兵役ノ期限既ニ滿ツルト雖モ戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習或ハ觀兵ノ擧アルトキ若クハ航海中或ハ外國駐劄中ハ其期限ヲ延ス事アルヘシ

附則

第八條　明治二十七年以前ニ召募シタル屯田兵ハ左ノ區別ニ依リ服役セシム

一　明治八年ヨリ明治十六年迄ニ召募シタル者ハ明治二十四年ヨリ四箇年間豫備役ニ服セシメ滿期後九箇年間後備役ニ服セシム

一　明治十七年ヨリ明治二十年迄ニ召募シタル者ハ明治二十四年ヨリ四箇年間豫備役ニ服セシメ滿期後召募ノ年ヨリ起算シ二十年ニ滿ツル迄後備役ニ服セシム

一　明治二十一年ニ召募シタル者ハ明治二十五年ヨリ四箇年間豫備役ニ服セシメ滿期後召募ノ年ヨリ起算シ二十年ニ滿ツル迄後備役ニ服セシム

一　明治二十二年以後明治二十四年以前ニ召募シタル者及明治二十五年以後明治二十七年以前ニ召募シタル騎兵、砲兵、工兵ハ三箇年

間現役ニ四ヶ年間豫備役ニ十三箇年間豫備役ニ服セシム

一　明治二十五年以後明治二十七年以前ニ召募シタル歩兵ハ七箇年間現役ニ十三箇年間後備ニ服セシム

第九條　前條ノ各兵役年期ノ起算方ハ本條例第六條ニ依ル

第十條　豫備服役中ハ戰時若クハ事變ニ際シ召集ス又平時ニ在テハ勤務演習其他特ニ公務ニ服セシムル爲メ召集ス

朕屯田兵移住給與規則ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名　御璽

明治二十七年七月十一日　陸軍大臣伯爵大山　巖

勅令第九十六號

屯田兵移住給與規則

第一條　屯田兵及其ノ家族移住ノ際ハ支度料旅費日當運搬料トシテ左ノ金額ヲ給與ス

一　支度料　一戸ニ付五圓

二　旅費日當　一人一日ニ付三十錢（七歳未滿ハ半額）

三　運搬料　一戸一日ニ付二圓六十錢

第二條　族費日當及運搬料ハ一日行程ヲ十里詰トシ給與ス

一里以上六里未滿ハ半額、六里以上ハ全額ヲ給與ス但一海里ハ陸路十六町九分七厘五毛ニ改算ス

第三條　集合地ヨリ移住地迄ノ旅行ニ關スル費用ハ官ニ於テ支拂フモノトス

第四條　疾病其ノ他正當ノ事故ニ由リ居殘リ若クハ途中ニ於テ滯在シ他日移住地ヲ至ル者ノ旅費日當及運搬料ハ移住地迄順路ニ依リ給與ス

疾病其ノ他正當ノ事故ニ由リ途中ニ於テ滯在シタルトキハ一人一日ニ付三十錢（十歳未滿ハ半額）ノ日當ヲ給與シ其ノ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ醫師及ヘ病院ニ於テ治療ヲ受ケタル者ハ診斷料、治療費及入院料（入院料ヲ給與スルトキハ日當ヲ給與セス）ハ實費ヲ給與ス但傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタル者ハ醫師ノ診斷書其ノ他ノ事故ニ由リタル者ハ憲兵、警察官若クハ市町村吏員ノ證明書ヲ差出スヘシ

第五條　屯田兵移住シタルトキハ兵屋、井戸（屬具共）、家具、夜具、農具、種物拂助米及ヒ捕米料ヲ給與ス但シ井戸及ヒ屬具ハ實際ノ景況ニ由リ二戸以上ニ一箇ヲ給與スルコトヲ得

移住後滿三ヶ年間ニ於テ變災ノ爲メ前項ノ兵屋、家具、夜具及農具ヲ亡失若クハ破損シ其ノ用ニ堪ヘサルニ至リタルトキハ更ニ之ヲ給與スルコトヲ得

第六條　家具ハ一戸ニ付左ノ現品ヲ給與ス

一	鍋大小	各一箇
二	茶碗	五箇
三	手桶	一荷
四	小桶	一組
五	擔桶	一荷
六	柄杓	一箇
七	燈具	一箇
八	鐵瓶	一箇

第七條　夜具ハ一戸ニ付左ノ現品ヲ給與ス

一	四布	三枚
二	三布	二枚

第八條　農具ハ一戸ニ付左ノ現品ヲ給與ス但農具ノ趣ヲ異ニスル移住地ニ在テハ他ノ物品ヲ換給スルコトヲ得

一	鍬大小	各一挺
二	唐鍬	大二挺小一挺
三	砥荒砥、中砥、鎌砥	各一箇
四	山刀	一挺
五	鎚	二挺
六	鋸	一挺
七	鉈大小	各一挺
八	鎌柴刈、草刈	各二挺

九	莚	二十枚
十	熊手	二挺
十一	培養桶	一箇

右ニ掲ケル外四戸ニ付唐箕一箇六戸ニ付臼并一箇ヲ給與ス

第九條　種物ハ一戸ニ付左ノ現品ヲ給與ス但其ノ土地ニ適セサルトキハ他品ヲ換給シ又時宜ニ由リ代金ヲ給與スルコトヲ得

一	蔴種子	一斗
二	大麥	一斗
三	小麥	一斗
四	大豆	一斗
五	小豆	五升
六	馬鈴薯	四斗
七	蠶卵紙	四半枚

第十條　扶助米及鹽菜料ハ移住地到着ノ翌日ヨリ起算シ滿五箇年間左ノ區分ヲ以テ毎月之ヲ給與ス但端日數ノ場合ニハ其ノ月ノ日數ヲ以テ月額ヲ除シ給與スヘキ日數ニ乘シテ給額ヲ定ム

給與年限	區分	一人一箇月ノ給額 扶助米	鹽菜料
第一期 移住ノ月ヨリ滿二箇年間	甲額	玄米二斗二升五合	四十五錢
	乙額	玄米一斗五升	三十錢
	丙額	玄米九升	二十一錢
第二期 第一期後滿一箇年間	甲額	玄米一斗三升五合	三十錢
	乙額	玄米九升	二十一錢
	丙額	玄米五升四合	十五錢
第三期 第二期後滿二箇年間	甲額	玄米四升五合	七錢五厘
	乙額	玄米三升	四錢五厘
	丙額	玄米一升八合	二錢

甲額ハ十五歲以上六十歲未滿ノ者ニ、乙額ハ七歲以上十五歲未滿及六十歲以上ノ者ニ、丙額ハ七歲未滿ノ者ニ給與ス

第十一條　移住地到着後五日以內ハ扶助米鹽菜料ニ換ヘ一人一日ニ付三十錢（七歲未滿半額）以內ノ現賄ヲ給與シ又時宜ニ由リ到着後三十日以

內ハ玄米ヲ二割減ノ割合ヲ以テ精米ニ換ヘ給與スルコトヲ得

第十二條　扶助米及鹽菜料ノ給與方左ノ如シ

一　疾病其ノ他正當ノ事故ニ由リ期日ニ後レ移住スル者ハ到着ノ翌日ヨリ扶助米及鹽菜料ヲ給與ス

二　附籍者ニシテ附籍主ト共ニ移住スル者ハ鰥寡孤獨ニシテ自營シ能ハス親戚ノ緣故ニ依リ附籍ノ者ニ限リ扶助米及鹽菜料ヲ給與ス

三　移住後滿三箇年以內ニ於テ婚姻緣組及出產ノ爲メ入籍スル者ハ扶助米及鹽菜料ヲ給與ス

四　家族中恩給、扶助料其ノ他官給ヲ受クル者ハ其ノ間扶助米及鹽菜料ヲ給與セス

五　屯田兵給與令ニ依リ糧食及食料ヲ受クルトキ竝ニ軍隊旅行演習旅行其ノ他旅費ヲ受クルトキハ日割ヲ以テ扶助米及鹽菜料ヲ控

除ス

六　屯田兵條例第四條第四項ニ依リ兵役ヲ免セラレタルトキハ扶助米及鹽菜料ノ給與ヲ止ム

七　第一第二ニ該ル者ハ其ノ戸主扶助滿限ノ日ヲ以テ扶助ノ終期ト

第十三條　屯田兵現役中ニ於テ各兵村一中隊ノ兵村ヲ云フ以下同シ ニ事業場四棟ヲ給與ス

實際ノ景況ニ由リ四棟ノ建坪ヲ合セテ一棟若クハ二三棟ナシ又ハ不用ニ屬シタル官有建物ヲ改修シテ給與スルコトヲ得

事業資金トシテ各兵村ニ一時限リ六百圓ヲ給與シ事業上必要ノ器具費其ノ他ノ費用ニ充テシ

第十四條　屯田兵移住シタルトキハ各兵村ニ學校一棟及所要ノ器具ヲ給與シ且其ノ維持費トシテ一時限リ二百圓ヲ給與ス

實際ノ景況ニ由リ一兵村ノ學校ヲ二棟ニ分チ若クハ二兵村ノ學校ヲ合セテ一棟トナスコトヲ得此ノ場合ニ在テハ其ノ器具及維持費ハ之ヲ三分シ若クハ二兵村分ヲ併セテ之ヲ給與スルモノトス

第十五條　兵村ニ給與シタル事業場學校及之ニ屬スル器具若クハ事業場學校ノ爲ニ給與シタル金額ノ管理使用ノ方法ハ屯田兵司令官之ヲ定ム

第十六條　屯田兵ノ家族ニシテ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹ル者アルトキ其ノ藥劑等ハ屯田兵移住後滿三途年間ハ之ヲ官給シ爾後滿五箇年間豫メ定ムル所ノ代價ヲ徵收シテ之ヲ付與スルコトヲ得

第十七條　屯田兵及其ノ家族移住官中ニ於テ死亡スルトキハ實費ヲ以テ埋葬ノ費用ヲ給與シ又其ノ家族ハ屯田兵移住後滿三箇年間ニ於テ死亡スルトキハ左ノ埋葬料ヲ給與ス

一五　圓　七歳以上ノ者

一二圓五十錢　七歳未滿ノ者

附則

第十八條　明治二十七年以前ニ召募シタル者ハ第四條第十二條第十六條第十七條ヲ除クノ外ハ總テ從前ノ規程ニ依ル

陸軍省令第六號

明治二十三年陸軍省令第三十號屯田兵召募規則左ノ通改正ス

明治二十七年五月二十一日　陸軍大臣伯爵大山　巖

屯田兵召募規則

第一條　屯田兵ハ志願者中召募撿査ニ合格シタル者ヨリ採用シ毎年四月ニ於テ移住セシム

第二條　屯田兵召募撿査ハ其年ノ召募區域内ニ於ケル大隊區司令官又ハ警備隊區司令官之ヲ行フ

第三條　屯田兵召募區域及其人員ハ召募スヘキ前年ニ於テ之ヲ告示ス

第四條　屯田兵志願者ハ前條ノ告示ニ依リ其年ノ八月三十一日迄ニ第一書式ノ願書ニ第二第三第四書式ノ履歴書、戸籍明細書、家族身体證明書ヲ添ヘ市町村長（東京京都大阪ノ三市ニ在テハ區長以下之ニ倣フ）ニ差出スヘシ

第五條　市町村長前條ノ願書ヲ受領シタルトキハ第五書式ニ依リ志願

者ノ身元證明書ヲ作リ願書ニ添ヘ府縣廳町村長ハ島司郡長ヲ經テ ニ差出シ府縣廳ニ於テハ之ヲ審査シ更ニ第六書式ノ連名簿ヲ作リ九月三十日迄ニ當該大隊區司令部又ハ警備隊區司令部ニ送附シ願書履歴書戸籍明細書及家族身體證明書ハ同時ニ屯田兵司令部ニ發送スヘシ

第六條　大隊區司令官又ハ警備隊區司令官前條ノ連名簿ヲ受領シタルトキハ島司郡市長ニ協議シ撿査場ヲ定メ撿査日割ヲ島司郡市長ニ通知シ島司郡長ハ之ヲ町村長ニ達シ其當日ニ至レハ市町村吏員ヲシテ志願者ヲ引纏メ撿査場ニ出頭セシムヘシ但志願者ニハ第二書式履歴書ノ寫ヲ携帶セシムヘシ

志願者撿査場ヘノ往復旅費並滯在日當ハ之ヲ給セス

第七條　屯田兵志願者願書ヲ差出シタル後自己及家族ノ身上ニ異動ヲ生シタルトキハ書面ヲ以テ志願者ノ死亡失踪處刑等ニ在テハ其家族ヨリ市町村長及島司郡長ヲ經テ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ屆出ヘシ

大隊區司令官又ハ警備隊區司令官前項ノ屆書ヲ受領シタルトキハ之ヲ屯田兵司令官ニ通報スヘシ

第八條　屯田兵召募撿査終レハ大隊區司令官警備隊區司令官ハ第八書式ノ撿査成績表不合格者ヲ除ク及第九書式ノ里程表ヲ作リ十二月三十一日迄ニ到達ノ時日ヲ測リ之ヲ屯田兵司令官ニ送附スヘシ但里程表ノ調製ハ第十附表屯田兵集合地各表ニ基クヘシ

屯田兵司令官ハ撿査成績表及第五條ノ書類ヲ審査シ採用スヘキ者ト豫備員トヲ定メ其人名簿並採用スヘキ者ノ集合地ヘ參集期日ヲ大隊區司令官警備隊區司令官ニ通知シ同官ハ第六條ノ手續ニ依リ之ヲ本人ニ告達シ又府縣廳ニ通知スヘシ

第九條　屯田兵移住ノ際ハ府縣知事吏員ヲ其集合地ニ派遣シ屯田兵受領員ニ引渡サシメ且其宿泊乘車乘船等ニ係ル取扱ヲ補助セシムヘシ

第十條　屯田兵ニ採用スヘキ者ノ資格ハ左ノ如シ

一　年齢　滿十七年以上三十五年以下但募年ノ四月一日ヲ以テ算ス

但陸軍各兵科豫備後備在役ノ下士上等兵ハ滿三十年以下ノ者

二　身長　五尺以上ノ者

但年齢二十年未滿ニシテ發育ノ見込アル者ハ四尺九寸以上

三　體質　强健ニシテ兵農ノ動作ニ堪ユル者

第十一條　前條ノ資格アル者ト雖モ左ノ事項ニ該ル者ハ採用セス

一　陸海軍現役兵及海軍豫備兵後備兵

二　一家中耕稼ノ勞働ニ堪ユル强壯者（養子ニシテ入籍後第四條ノ出願時期迄ニ一ケ年ニ滿タサル者ハ除ク）本人ヲ併セテ三人ニ滿タサルモノ

三　身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者及家資分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケ未タ復權ヲ得サル者竝其處分ヲ受ケスト雖モ移住迄ニ負債ヲ辨償シ得サル者

四　素行修マラサル者

五　禁錮ノ刑ニ處セラレタル者

六　養子ニシテ入籍后第四條ノ出願時期迄ニ一箇年ニ滿タサル者

七　召募區域内ニ本籍ヲ定メ第四條ノ出願時期迄ニ一箇年ニ滿タサル者

第十二條　屯田兵志願者ノ身體檢查ハ陸軍志願兵身體檢查規則ニ依ル」

屯田兵志願者身體檢查醫官ハ檢查場最寄備成地在職ノ軍醫ヲ派シテ之ニ任セシムヽ之カ爲メ大隊區司令官ハ豫メ檢查日割及檢查場ヲ師團長ニ上申シ軍醫ノ派遣ヲ申請スヘシ但警備隊區ニ在テハ警備隊區司令官ヨリ警備隊司令官ニ軍醫ノ派遣ヲ請求スルモノトス

前項ノ軍醫ハ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ノ指揮ヲ受クルモノトス

第十三條　屯田兵ニ採用ノ達ヲ受ケタル者ハ直ニ家族（成年以上ノ者）ト共ニ第七書式ノ誓文書ヲ作リ市町村長及島司郡長ヲ經テ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ差出スヘシ

前項ノ誓文書ハ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官之ヲ取纏メ屯田兵司令官ニ送付スルモノトス

第十四條　屯田兵ニ採用スヘキ者ノ支度料旅費日當及運搬料ハ屯田兵大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ヨリ大隊區司令部又ハ警備隊區司令部ニ送附スヘシ

大隊區司令官又ハ警備隊區司令官前項諸費ノ送附ヲ受ケタルトキハ之ヲ本人ニ支給スヘシ

第十五條　屯田兵ニ採用ノ達ヲ受ケタル者ニシテ移住前戸主トナラサル者若クハ第十一條ニ該當シ又ハ失踪死亡等ノ事故ヲ生シタルトキハ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官其採用ヲ取消シ豫備員ヲ以テ之ヲ補充シ其旨ヲ屯田兵司令官ニ通報スヘシ但其採用ヲ取消シタル者既ニ支度料旅費日當及運搬料支給後ニ係ルトキハ之ヲ返納セシムヘシ

第十六條　疾病其他正當ノ事故ニ由リ指定ノ期日ニ移住シ難キ者アルトキハ期日ヲ定メ疾病ニ罹ル者ハ醫師ノ診斷書其他ノ事故ニ係ル者ハ憲兵警察官若クハ市町村長ノ證明書ヲ添ヘ戸主ヨリ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ願出ヘシ但本文ノ事故止ミタルトキハ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ就キ旅費日當ヲ受領シ直ニ出發スヘシ

大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ於テ前項ノ許可ヲナストキハ其旨ヲ屯田兵受領員ニ通報スヘシ

第十七條　臨時屯田兵ノ缺員ヲ補充スルノ必要アルトキハ屯田兵服役者ノ家族中男子ニシテ分籍ヲ志願スル者ノ內ヨリ採用スルコトアルヘシ

前項ノ場合ニ在テハ本規則第十條乃至第十三條ノ例ニ準據ス

第十八條　移住者ノ荷物ハ一戸ニ付八箇以内トシ一箇ノ重量ハ九貫目以内トス但左ニ掲クル物件ハ携帶スルヲ許サス

一　長持若クハ之ニ等シキ體積ノモノ

二　大形ノ簞笥若クハ之ニ類スルモノ

三　漬物若クハ流動物ヲ入レタル樽ノ類

四　甕若クハ臼類

五　危險物

六　以上掲クルモノヽ外取扱ノ困難ナルモノ

附　則

第十九條　本令施行期限以前從前ノ規定ニ依リ願書ヲ府縣廳ニ差出シタルモノハ之ヲ受理ス

第二十條　市制町村制實施セサル地方ニ在テハ本規則中市町村長ノ職

[illegible]

第一[illegible]

屯田兵服役願

某　儀

屯田兵志願ニ付御檢査ノ上御採用被下度然ル上ハ家族一同北海道ヘ移住シ共ニ御規則嚴重ニ相守リ可申仍テ別紙履歴書戸籍明細書及家族身體證明書相添ヘ此段奉願候也

年　月　日

族籍（戸主ニ非ル者ハ某子弟等）

住所　姓　名　印

年長月長生
何年四月何年何箇月

屯田兵司令官姓　名殿

右之通願出候ニ付取調候處相違無之候也

年　月　日　何府縣何市何郡何町村長姓　名　印

[illegible]

第二書式　用紙美濃紙

履歴書

何年何月種痘（天然痘）

族籍（戸主ニ非ル者ハ某子弟等）

姓　名　年号月日生　何年四月何年何箇月

一何年何月日ヨリ何年月日マテ何學校（塾）入學何科卒業（何學修業）
一何年月日ヨリ何年月日マテ何學研究（商業）ノ為メ何處留學（滞在）
一何年月日ヨリ何官（何職）任（免）何省何府縣廳
一何年月日ヨリ何業ニ從事何年間繼續何々ニ轉業目下何々業
一何年月日何々ニ依リ賞典何々下賜
一何年月日何々ノ科ニ依リ何罰申付ヲル

右之通相違無之候也

年　號　月　日

本人　姓　名　印

一書式ニ示ス猶履歴ニ係ルモノハ悉ク記スヘシ
一志願者戸主ニ非サルトキハ戸主連署スヘシ

第三書式　用紙美濃紙

戸籍明細書

何府（縣）何市（郡）何町（村）族籍職業

戸主　某　年号月日生　何年四月何年何箇月

祖父　某　同　上
祖母　某　同　上
實（養）父　某　同　上
實（養）母　某　同　上
妻　某　同　上
何男（何女）（養子女）某　同　上
兄（弟、姉、妹）某　同　上

何府（縣）何市（郡）何町（村）何某女
廢疾等不見等
何府（縣）何市（郡）何町（村）何某女
何府（縣）云々
（養子ナレハ）何年何月入籍

陸海軍現役兵隊軍艦後備兵ナレハ何年何月日何役滿期

右之通ニ候也

年號　月　日　　本人姓　名印

右取調候處相違無之候也

年号　月　日　　何府(縣)何市(何郡何町(村)長姓　名印

一戸主ト異ナル業務ニ從事スル者又ハ特別ノ技能ヲ有スル者ハ名ノ上ニ何業ニ從事何々ヲ能クスル等記スヘシ

一志願者戸主ニ非ルトキハ戸主連署スヘシ

第四書式

家族身體證明書

一父　某　體格强壯ニシテ勞働ニ堪ユ○何歲ノ時何病ニ罹リシコトアリ

一妻　某　體格稍虛弱○幼時ヨリ大患ニ罹リシコトナシト雖モ四年來歇斯的里病ヲ患フ○現今時々頭痛背痙等ノ症アリテ爲メニ連日業務ヲ廢スルコトアリ

一弟　某　体格强壯○生來大患ニ罹リシコトナシ○本月何日來肺義膜炎ニ罹リ目下何々ノ症アリ豫後ト知シ難シ

右診査ノ上及證明候也

(以下前例ニ倣フ)

年號　月　日　　住所族籍　醫　姓　名印

右之通ニ候也

年號　月　日　　族籍　本人姓　名印

一本書ノ家族ハ十五歲以上六十歲未滿ノ者ニ限ル

第五書式

身元證明書

族籍(戸主ニ非ル者ハ某子弟等)　姓　名

一身代限ノ處分又ハ家資分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケタルコトナシ(身代限ノ處分ヲ受ケシモ既ニ負債ノ辨償ヲ了ル)(家資分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケシモ既ニ復權ヲ得タリ

一現今負債ナシ(現今幾許ノ負債アリト雖トモ移住前ニ辨償シ得ルノ見込ナリ)

一陸海軍現役兵海軍豫備兵後備兵ニ非ラス

一禁錮ノ刑ニ處セラレタルコトナシ

一品行方正

一召募區域内ニ本籍ヲ定メ出願時期迄ニ已ニ一箇年ヲ經過セリ

一入籍後出願時期迄ニ已ニ一箇年ヲ經過セリ(養子ナレハ)

一家族中禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ノ有無(某何々ノ罪ニ由リ何年日月間何々ニ處セラル或ハ目下拘留中、刑期中等)

右之通ニ候也

年號　月　日　　何府(縣)何市(何郡何町(村)長姓　名印

第六書式

屯田兵志願者連名簿

産地	住所	族籍	家族人員 大	家族人員 中	家族人員 小	誕生	姓名
何縣何市何町	何府何市何町	士族	三	一	○	何年何月何日	戸主何某
何縣何郡何村	何縣何郡何町	平民	四	一	一	何年何月何日	某二男何某

一家族人員ノ區畫中大ハ十五歳以上六十歳未滿ノ者ヲ記シ中ハ六十歳以上及七歳以上十五歳未滿ノ者ヲ記シ小ハ七歳未滿ノ者ヲ記スヘシ

一志願者戸主ニ非ルトキハ姓名ノ肩ニ戸主ノ續柄(某子弟等)ヲ記スヘシ

第七書式　用紙美濃紙

誓文

今般何某屯田兵ニ御採用相成候ニ付テハ家族一同北海道ヘ移住シ共ニ御規則嚴重ニ相守リ誓テ兵農ニ從事可仕且服役中ハ決シテ自ラ免役ヲ請願致シ候等ノ儀仕間敷尚ホ左ノ條々堅ク相守リ聯カ遠背不仕候仍テ家族連署誓文如件

一　服役中年齢滿限若クハ死亡其他ノ事故ニ由リ免役トナルトキハ子弟(子弟ナキトキハ養子弟等)ニ於テ家名相續致シ本人ノ服役殘期間兵役ニ服シ可申事

二　戸主ハ家族ヲ訓誡誘導シ家族ハ戸主ヲ輔ケ一家ノ業務ニ從事シ特ニ戸主出務ノ間ハ家族中ノ年長者ニ於テ一切ノ取締ヲ爲シ戸主ヲシテ內顧ノ憂ナカラシムル樣可致事

三　官給ノ土地ヲ墾成セサル間ハ一意農業ニ從事シ許可ヲ得スシテ他所ニ寄留シ或ハ他ノ事業ニ從事スル等ノコト致ス間敷事

四　時々ノ御達竝ニ訓旨等ハ家族ニ至ルマテ嚴重ニ遵守可仕事

年號　月　日

本人　何　某印

同人父　何　某印

同人母　何　某印(拇印)

第八書式

檢査成績表

何大隊區(警備隊區)

住所	職業	兵役	年齢	等位	身長	教育ノ程度	參考事項	姓名
何郡何村	農	豫備後備	何年何箇月	甲(乙)種	五尺二寸	上(中)(下)(不)	志操確實何々	何某

一農業ニ兼業アルモノハ之ヲ併セ記スヘシ

一年齢ハ召募ノ年ノ四月一日ヲ以テ計算スヘシ

一教育ノ程度ハ高等小學卒業及凡ソ之ト同等以上ノ者ヲ上トシ尋常小學卒業及凡ソ之ト同等以上ノ者ヲ中トシ稍簡易ノ筆算ヲ爲シ得ル者ヲ下トシ全ク之ヲ能クセサル者ヲ不ト記スヘシ

一參考事項ニハ本表ニ例ヲ示スノ外町村中名望アル者又ハ鄕黨ノ指彈セラルヽ者其他召集上參考トナルヘキモノト認ムル事項ヲ記スヘシ

第九書式

里程表

何大隊區(警備隊區)

住所	集合地	住所ヨリ集合地ニ至ル經路	同上里程	姓名
何郡何村	地名	何地ニ出テ何道通	何十何里	何某

第十附表

屯田兵集合地名表

師管	大隊區	警備隊區	集合地
第一	麻布		
	横濱		
	高崎		
	長野		
	佐倉		
	水戸		
	本郷		
	宇都宮		
			横濱

第二	第三	第四
仙臺	名古屋	福知山
福島	津	神戸
盛岡	岐阜	岡山
青森	豊橋	姫路
山形	静岡	京都
秋田	金澤	大津
新發田	富山	和歌山
柏崎	福井	大阪

第四	第五	第六
萩ノ濱	廣島	廣島
青森	山口	馬關
酒田	江	境
土崎	松	尾ノ道
新潟	尾ノ道	三ツケ濱
四日市	松山	多度津
清水	丸龜	德島
伏木	德島	高知
敦賀	高知	三角
神戸	熊本	大分
宮津	大分	細島
	宮崎	鹿兒島
	鹿兒島	門司
	小倉	博多
	佐賀	長崎
	福岡	
	長崎	

一本表中盛岡大隊區ノ內宮城縣登米本吉栗原ノ三郡ハ荻ノ濱ニ其他ノ郡市ハ青森ニ對シ

一一師管中其大隊區ヲ限リ召募スルトキハ隨時集合地ヲ指定スルコトアルヘシ

一人員寡少若クハ其他ノ都合ニ由リ必要ト認ムルトキハ市田兵司令官一時本表ノ集合地ヲ變更スルコトヲ得

陸達第七十二號

屯田各兵科現役下士補充細則ヲ左ノ通改正ス

明治二十七年七月十三日　陸軍大臣伯爵大山　巖

屯田各兵科現役下士補充細則

第一條　各兵科現役下士補充條例第三條中隊長ノ職務ハ屯田騎兵、砲兵、工兵隊ニ在リテハ該隊長之ヲ行フヘシ

第二條　屯田騎兵、砲兵、工兵隊下士ノ任官ハ屯田兵司令官ニ於テスヘシ

第三條　各兵科現役下士中屯田兵條例ニ依リ服役ヲ許スヘキ人員ハ毎年之ヲ告達ス

第四條　各師團及各官廳ニ於テハ前條ノ告達ニ基キ志願者ヲ取調其願書ニ屯田兵召募規則第二、第三、第四、第五書式ノ履歴書、戸籍明細書、家族身體證明書（第三、第五、第六項ハ除ク）及考科表ヲ添ヘ九月三十日迄ニ屯田兵司令部ニ送附スヘシ但身元證明書ハ本人ヨリ原籍市町村長ニ請求セシムヘシ

第五條　屯田兵司令官ハ第三條ノ告達ニ基キ前條ノ志願者中所要ノ人員ヲ選抜任用スヘシ

前項ニ依リ任用スヘキモノヽ姓名ハ之ヲ陸軍大臣ニ報告シ且其姓名及不採用者ノ姓名ヲ各其所管ニ通知スヘシ但任用セシ人員ハ漸ニ召募スヘキ屯田兵ノ定員中ニ算入スルモノトス

各所管ニ在リテ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ任用ノ旨ヲ本人ニ下達シ之ヲ豫備若クハ後備ニ編入スヘシ

第六條　通常ノ服役法ニ依リ屯田兵ニ轉センコトヲ志願スル者ノ取扱亦第四條ノ例ニ依ル但戸籍明細書、家族身體證明書及身元證明書ハ之ヲ要セス

前項ノ志願者ハ屯田兵司令官所要ノ人員ヲ豫定シテ候補名簿ヲ作リ所要ニ應シテ之ヲ任用シ其都度姓名ヲ陸軍大臣ニ報告スヘシ但候補

者ニ採用セサル者ノ姓名ハ各其所管ニ通知スルヲ要ス

第七條　前條ニ依リ屯田兵ニ轉スルノ後更ニ屯田兵條例ニ依リ服役センコトヲ志願スル者ノ取扱ハ第四條第五條ノ例ニ準據ス

第八條　屯田兵條例ニ依リ服役ヲ許可シタル者ニ關シテハ屯田兵召募規則第七條第十三條第十四條第十五條第十六條及第十八條ヲ適用ス

但寄留地ヨリ直ニ移住スル者ニ在リテハ其地ノ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官及島司郡市長町村長ノ取扱ニ屬ス

第九條　屯田兵召募規則第十一條第二項第三項第四項第五項ハ本則ニ於テ之ヲ適用ス但第六條ニ依リ服役スル者ハ第二項ヲ適用スル限ニアラス

第十條　屯田兵條例ニ依リ服役スル下士ニシテ屯田兵司令官拓殖事業ニ支障無シト認ムル者ハ司令部附又ハ大隊本部附ヲ命スルコトヲ得

陸軍省訓令第十三號

陸軍豫備後備將校同相當官及下士兵卒竝歸休兵ニシテ他ニ寄留中召集ニ關スル取扱ヲ左ノ通定メ明治二十年五月當省訓令甲第一號乙第一號ヲ廢ス

明治二十三年七月十八日

近衞師團司令部
道廳府縣

第一項　陸軍豫備後備將校同相當官及下士兵卒竝歸休兵ニシテ寄留地ヨリ直ニ召集ニ應シ又ハ近衞集合地ニ到ランコトヲ願出ル者アルトキハ將校同相當官ハ師團長下士以下ハ大隊區司令官ニ於テ之ヲ許可スルコトヲ得

第二項　前項ノ許可ヲ受ケタル者ハ旅費受領人ヲ定メ豫メ委任狀ヲ渡シ置キ其住所氏名ヲ島司郡長（北海道ハ函館區長）又ハ市長（東京京都大坂ハ區長）ニ屆出テシムヘシ但市長ヨリハ其住所氏名ヲ直間稅分署長ヘ通報スヘシ

第三項　旅費ハ其受領人ヨリ令狀ハ召集令通報人ヨリ便宜ノ手續ヲ

以テ本人ニ送致セシムヘシ

第四項　旅費額ハ本籍地ヨリ起算シ召集地又ハ近衛兵集合地迄ノ計算トス

第五項　近衛兵集合地ヲ經ス直ニ召集地ニ至ル者ハ集合地ヨリ召集地迄ノ旅費ハ近衛ヨリ追給スヘシ

陸達第八號

陸軍各兵科豫備後備將校勤務演習教令左ノ通定ム

但施行期限ハ追テ達スヘシ

明治二十六年二月十七日

陸軍大臣伯爵大山　巖

陸軍各兵科豫備後備將校勤務演習教令

第一條　本教令ハ豫備後備將校服役條例第二條及同將校補充條例第十三條ニ掲クル勤務演習ヲ施行スル爲メニ設クル者ニシテ專ラ戰時ノ勤務ニ堪ユヘキ能力ヲ保持セシムルヲ以テ目的トス

第二條　豫備後備將校ハ其豫備後備將校トナリタル翌年度ヨリ隔年ニ當該兵科ノ聯(大)隊ニ召集シ豫備後備將校ハ五週日後備將校ハ三週日復習セシムヘシ其時期ハ歩兵ニ在テハ師團長其他ニ在テハ當該兵監之ヲ定ム

但特ニ志願スル者ハ本條ノ期年ニ拘ラス演習セシムルコトヲ得

第三條　豫備後備將校補充條例第十三條ニ掲クル者ノ勤務演習ハ第二

條ノ日數ニ一週日ヲ增加スルヲ異トス

第四條　豫備後備將校勤務演習召集中ハ各中隊ニ分屬セシメ其教育ハ概ネ將校團教育令ニ依ル但佐官ニ在リテハ各中隊ニ分屬スルノ限リニアラス

第五條　勤務演習ノ人員ハ毎年之ヲ告達ス

第六條　勤務演習終リタル後聯(大隊長ハ其景況ヲ師團長歩兵ハ旅團ニ報告作業書類ノ忽等ヲ騎砲工輜重兵ニ在テハ同時ニ當該兵監ニモ報告スヘシ

陸達第十六號

陸軍各兵科豫備後備將校勤務演習教令本年四月一日ヨリ實施ス但本年召集人員ノ義ハ昨二十五年ノ陸軍大演習ニ從事セサル一年志願兵出身者ニ限ル

明治二十六年三月十日

陸軍大臣伯爵大山　巖

陸達第九號

陸軍各兵科豫備後備下士勤務演習教令左ノ通定ム

但施行期限ハ追テ達スヘシ

明治二十六年二月十七日

陸軍大臣伯爵大山　巖

陸軍各兵科豫備後備下士勤務演習教令

第一條　本教令ハ豫備後備下士兵卒服役條例第二條及各兵科同下士補充條例第六條ニ掲ル勤務演習ヲ施行スル爲メニ設ルモノニシテ專ラ戰時ノ勤務ニ堪ユヘキ能力ヲ保持セシムルヲ以テ目的トス

第二條　豫備後備下士ハ其豫備後備下士トナリタル翌年度ヨリ隔年ニ歩兵ニ在テハ聯合大隊區毎ニ所定ノ聯隊ニ其他ニ在テハ當該兵科ノ聯(大)隊ニ召集シ豫備下士ハ三週日後備下士ハ二週日復習セシム其時期ハ歩兵ニ在テハ師團長其他ニ在テハ當該兵監之ヲ定ム但九年以上現役ニ服シタルモノハ通常復習セシムルコトナシ

第三條　豫備後備下士補充條例第六條ニ掲クルモノヽ勤務演習ハ第二條ノ日數ニ一週日ヲ增加スルヲ異ナリトス

第四條　豫備後備下士勤務演習召集中ハ各中隊ニ分屬シ下士ノ勤務ニ服セシム

第五條　勤務演習ノ人員ハ毎年之ヲ告達ス

第六條　勤務演習終リタル後聯(大)隊長ハ其景況ヲ師團長（歩兵ハ旅團長ヲ經テ）ニ報告シ騎砲工輜重兵ニ在テハ同時ニ當該兵監ニモ報告スヘシ

附　則

第七條　豫備後備兵卒中下士適任證書ヲ所持スル者モ本令ニ依リ復習セシム

朕軍事參議官條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治二十六年五月十九日

勅令第三十五號

軍事參議官條例

第一條　軍事參議官ハ之ヲ帷幄ノ中ニ置キ軍事ニ關スル機務ニ參議セシム

第二條　軍事參議官ノ左ノ如シ

陸軍大臣
海軍大臣
參謀總長
監軍
海軍軍令部長

第三條　凡ソ事陸海兩軍ニ關スルモノハ各參議官ナシテ其議ニ參セシ

メ陸軍ノミニ關スルモノハ陸軍大臣參謀總長監軍海軍ノミニ關スルモノハ海軍大臣海軍軍令部長ヲシテ其議ニ參セシム

○

朕戰時大本營條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治三十六年五月十九日

勅令第五十二號

戰時大本營條例

第一條　天皇ノ大纛下ニ最高ノ統帥部ヲ置キ之ヲ大本營ト稱ス

第二條　大本營ニ在テ帷幄ノ機密ニ參與シ帝國陸海軍ノ大作戰ヲ計畫スルハ參謀總長ノ任トス

第三條　幕僚ハ陸海軍將校ヲ以テ組織シ其人員ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第四條　大本營ニハ各機關ノ高等部ヲ置キ大作戰ノ計畫ニ基キ其事務ヲ統理セシム

朕參謀本部條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名　御璽

明治二十六年十月三日

勅令第百七號

參謀本部條例

第一條　參謀本部ハ國防及用兵ノ事ヲ掌ル所トス

第二條　陸軍大將若クハ陸軍中將一人ヲ參謀總長ニ親補シ　天皇ニ直隷シ帷幄ノ軍務ニ參畫シ又參謀本部ヲ統轄セシム

第三條　參謀總長ハ國防計畫及用兵ニ關スル條規ヲ策案シ親裁ノ後軍令ニ屬スルモノハ之ヲ陸軍大臣ニ移シ奉行セシム

第四條　參謀總長ハ陸軍參謀將校ヲ統轄シ其教育ヲ監督シ陸軍大學校「陸地測量部及在外國公使館附陸軍武官ヲ統轄ス

第五條　參謀本部次長ハ參謀總長ヲ輔佐シ部務整理ノ責ニ任ス

第六條　參謀本部ニ副官部ヲ置キ部内ノ庶務、會計經理ノ事ヲ管掌ス兼テ陸軍文庫ヲ管理ス

第七條　參謀本部ニ第一局、第二局及編纂課ヲ置キ其各局課長ヲシテ左ニ揭ク事務ヲ分擔シ其責ニ任セシム

第一局

動員計畫ノ調査

平戰兩時團隊編制ノ起案

兵器材料彈藥裝具ノ審議

戰時諸條規ノ起案

運輸交通ノ調査及計畫

第二局

作戰計畫ノ調査

要塞位置ノ撰定及其兵器彈藥ノ審議

團隊布置ノ審議

外國軍事ノ調査

外國地理ノ調査及其地圖ノ輯集

編纂課

內外兵要地誌及ヒ政誌ノ編纂

戰史ノ編纂

外國書ノ飜譯

第八條　豫メ擔任ヲ定メサル事項ハ臨時局課ヲ指定シ若クハ局課員ニ下命シ其事ニ與ラシム

第九條　參謀本部職員ノ定員ハ別表定ル所ニ據ル

（別表）

參謀本部職員定員表

參謀總長 陸軍大(中)將	副官部	副官 大(中)佐	副官 少佐 大尉	一 二
			軍吏	一
參謀本部次長 陸軍中(少)將	第一局	局長 參謀大佐	局員 出仕將校	參謀佐尉官 海軍參謀佐尉官 大(中)尉 八 一 三
	第二局	局長 參謀大佐	局員 出仕將校	參謀佐尉官 海軍參謀佐尉官 大(中)尉 八 一 〇
	編纂課	課長 中(少)佐	課員	尉官或ハ編修 二
				編修書記或ハ屬 一〇
				下士屬 一四

備考

一 本表定員ノ外在外國公使館附武官(佐官)六名ヲ有ス

二 局員ニ缺員アルトキハ之ニ代ユルニ出仕將校ヲ增員スルコトヲ得

三 海軍參謀佐尉官ハ本職アル者ヲシテ兼勤セシム

朕國民軍條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十八年一月二十五日　陸軍大臣伯爵西鄕從道

敕令第十三號

國民軍條例

第一條　國民軍ハ陸軍ニ屬シ主トシテ衞戍若クハ邊境ノ警備ニ充ツ

第二條　國民軍ハ國民兵ヲ以テ之ヲ編制ス

第三條　國民兵ノ召集及解散ハ勅令ニ依リ師團長之ヲ行フ

戒嚴ヲ宣告シ得ルノ權アル司令官時機切迫シテ通信斷絕シ命ヲ請フノ途ナキトキハ直ニ召集ヲ行フコトヲ得

第四條　國民軍幹部ハ必要ニ應シ現役豫備後備ノ陸軍將校同相當官准士官下士ヲ以テ充ツルノ外左ニ揭クル者ヨリ撰拔シテ之ニ充ツ

一　退役ノ陸軍將校同相當官准士官ニシテ國民兵役ニ在ル者若クハ

國民軍編入志願ノ者

二　元陸軍下士上等兵ニシテ國民兵役ニ在ル者若クハ國民軍編入志願ノ者

三　國民兵中材幹技能アル者

第五條　陸軍後備兵ニシテ後備軍召集ニ加ハラサル者ハ特ニ國民軍ニ編入スルコトヲ得

第六條　第四條第二第三ニ該ル者ノ任官ハ陸軍武官官等表ニ依リ士官以上ハ師團長ノ具狀ニ由リ陸軍大臣之ヲ奏薦宣行シ其ノ他ハ師團長ノ認可ヲ得テ聯隊長同等以上ノ權アル長官之ヲ行フ

第三條第二項ニ依リ召集ヲ行ヒタル司令官ハ召集員ニ士官以上ノ勤務ヲ命スルコトヲ得其勤務ヲ命セラレタル者ノ身分取扱ハ官職ヲ有スル者ニ準ス

前項ノ司令官師團長ニアラサルトキハ準士官以下ノ任官ニ付師團長ト同一ノ權ヲ有ス

第七條　國民軍幹部ノ進級ハ抜擢トス其ノ任官ハ前條ノ例ニ依ル

第八條　國民軍編制ノ爲メ召集セラレタル者志願ニ由リ國民軍ニ編入セラレタル者ハ其ノ間現役ニ準ス

第九條　第四條第二第三ニ該リ任官シタル者解散ノトキハ準士官以上ハ之ヲ退役トシ下士ハ其ノ官ヲ免ス

陸軍省令第二號

國民兵召集規則左ノ通定ム

陸軍大臣伯爵西鄉從道

明治二十八年二月一日

國民兵召集規則

第一章　總則

第一條　國民兵召集ヲ別テ左ノ四種トス

第一種　陸軍ニ於テ軍事教育ヲ受ケタル者

第二種　滿二十一歳以上二十六歳未滿ニシテ陸軍豫備徽員タリシ者

第三種　滿二十六歳以上三十歳未滿ニシテ陸軍豫備徽員タリシ者

第四種　前三種ニ屬セサル者

第二條　各種ノ國民兵召集ハ各種同時若クハ各別ニ之ヲ行ヒ又ハ一部ノ地方ヲ限リ之ヲ行フコトヲ得

第三條　各種ノ國民兵ハ年齡若キ者ヨリ之ヲ召集スルヲ例トス

年齡十七歳以上二十歳迄ノ國民兵ハ特別ノ命令アルニ非ヲサレハ之ヲ召集セス

第四條　本規則ニ於テ郡ト稱スルハ市（東京、京都、大阪ノ三市ニ在テハ區長）及島嶼ヲ置キタル島嶼ヲ包含ス

第五條　本規則ニ於テ師團長ト稱スルハ近衞師團長ヲ包含セス又警備隊區ニ在テハ司令官ハ大隊區司令官、島司ハ郡長、市長（東京、京都、大阪ノ三市ニ在テハ區長）郡長及町村長戸長ハ町村長ノ職務ヲ行フ

第六條　戒嚴ヲ宣告シ得ル權アル司令官國民兵ノ召集ヲ行フ場合ニ在テハ師團長ニアラサル司令官ハ其召集ニ關シ師團長ト同一ノ職權ヲ有ス

第二章　召集

第七條　師團長國民兵召集令ヲ下ストキハ之ト同時ニ召集ノ種類所要ノ人員及召集地ヲ定メ旅團長ヲ經テ大隊區司令官ニ達シ又地方長官

ニ通知スヘシ

師團長所要ノ人員ヲ定ムルニハ召集區域中召集ノ種類毎ニ其總員（不應召員ノ見込數ヲ書キタルモノ）ヲ率トシ比例ヲ以テ之ヲ各大隊區ニ配賦ス但配賦人員ニハ檢查不合格見込人員凡十分ノ壹ヲ加算スルモノトス

第八條　大隊區司令官前條ノ達ヲ受クレハ各郡ニ配賦スヘキ人員召集地及應召員ノ一旦集合スヘキ地點竝ニ其集合期日ヲ定メ之ヲ郡長ニ通達ス大隊區司令官召集人員ヲ定ムルニハ大隊區中召集ノ種類毎ニ其總員ヲ率トシ比例ヲ以テ之ヲ各郡ニ配賦ス

大隊區司令官ハ各郡ノ應召員竝ニ其召集地到着ノ時日ヲ豫定シ之ヲ旅團長ヲ經テ師團長ニ報告スヘシ

第九條　郡長ハ地方長官ヨリ國民兵召集令ヲ受領シ大隊區司令官ヨリ前條第一項ノ通達ヲ受ケタルトキハ召集令ヲ召集スヘキ人員召集地集合地及集合期日ヲ町村長ニ通達シ且集合地ニハ吏員ヲ派遣スヘシ

郡長召集人員ヲ定ムルニハ郡中召集ノ種類毎ニ其總員ヲ率トシ比例ヲ以テ之ヲ各町村ニ配賦ス

第十條　町村長前條ノ達ヲ受ケタルトキハ其配賦人員ニ應シ第一樣式ノ召集令傳達書ヲ作リ之ヲ國民兵中召集スル種類ニ相當スル者ノ內年齡若キ者ヨリ逐次ニ之ヲ交付シ配賦人員ニ充タシメ然ル後集合地ニ至リ派遣ノ郡吏員ニ第二樣式ノ應召員連名簿二通ヲ附シテ應召員ヲ交付スヘシ此名簿ニハ其町村ニ在籍スル國民兵中召集令傳達書ヲ交付シタル總テノ人名ヲ揭ケ不應召員ハ其事由ヲ記シ第十二條ノ書類ヲ添フヘシ

第十一條　召集傳達書ヲ受ケタル國民兵ハ町村長ノ指示ニ從ヒ該傳達書ヲ携帶シ發達スヘシ

第十二條　正當ノ事故ニ因リ召集ニ應シ難キ者ハ本人或ハ戸主若クハ其家族ヨリ二十四時間以內ニ町村長ニ屆出ツヘシ但其事故傷痍疾病

ニ係ルトキハ醫師ノ診斷書ヲ其他ハ憲兵或ハ警察官ノ承認書ヲ添フヘシ

前項ニ違背シタル者ハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處シ又ハ五日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第十三條　郡吏員集合地ニ至レハ町村長ヨリ受領セシ連名簿ヲ大隊區司令部ニ出張員ニ差出スヘシ

第十四條　應召員集合地ニ到着スレハ大隊區司令官或ハ大隊區司令部出張員身體檢查ヲ爲サシメ合格不合格ヲ召集令傳達幷ニ連名簿ニ記入シ連名簿一通ハ之ヲ郡吏員ニ傳達書ハ本人ニ返附シ其合格者ハ郡吏員ヲシテ召集地ニ引率セシメ不合格者ハ直ニ歸鄉セシムヘシ但身體檢查ハ最寄衞戍地ノ在職軍醫若クハ地方醫師ヲシテ之ヲ行ハシムヘシ

第十五條　郡吏員應召員ヲ引率シテ召集地ニ到着シタルトキハ連名簿ト共ニ之ヲ國民兵受領員ニ交付スヘシ

第十六條　召集地ニ於テ國民兵受領員ハ師團長適宜ニ之ヲ編成スヘシ

第十七條　召集令傳達書ハ應召員ヨリ編入セヲレタル部隊ニ差出スモノトス

第十八條　陸軍召集條例第二章中本則ニ矛盾セサルモノハ之ヲ準用ス

第三章　旅費支給

第十九條　國民兵召集旅費ハ當該監督部長陸軍大臣ノ命令及師團長ノ請求ニ依リ居住地ヨリ集合地迄ノ概算額ハ之ヲ陸軍臨時召集旅費支出ノ規程ニ定ムル所ノ出納官吏ニ送付シ該出納官吏ハ適宜之ヲ應召員ニ交付スヘシ

其集合地ヨリ解集地迄ノ旅費及檢查不合格ノ歸鄉旅費概算額ハ之ヲ大隊區司令官ニ送付シ該司令官又ハ司令部出張員ヨリ本人ニ交付スヘシ

第三十條　國民兵召集旅費ハ陸軍給與令第三十七表ノ額ニ依ル

第二十一條　志願ニ依リ國民軍ノ幹部ニ充テラレタル者ハ前條ノ例ニ依リ編成地ニ於テ旅費ヲ給ス

第四章　雜則

第二十二條　第六條ノ場合ニ在テ前諸條ノ規定ニ依リ難キトキハ司令官必要ニ應シ適宜處置スルコトヲ得

第二十三條　後備軍召集ニ應セサル在鄉軍人ニシテ國民兵ト共ニ召集セラルヽ時ハ其召集手續ハ本規則ニ依リ施行スルコトヲ得

第一樣式　用紙半紙罫紙

國民兵召集令傳達書

第何種國民兵

何府(縣)何郡(區)市町村番地
族籍戶主(某長男、子弟等)
姓　名　何年何月生

右國民兵トシテ何召集地ニ召集ヲ命セラレ候條來ル何月何日午前何時何大隊區何地集合地ニ參集スヘシ

何年何月何日

何市町村長　姓　名　印

記

一金何圓何拾何錢也

右居住地ヨリ集合地迄ノ旅費トシテ相渡候也

何年何月何日

何郡長(何收稅署長)(何郡書記)姓　名　印

第二樣式　用紙美濃罫紙

何府(縣)何郡(區)市町村
第何種國民兵連名簿

住所	族籍	召集ニ應セサル事由	合格不合格	摘要	姓名
何村字何々番地士族戸主某長男子弟等		疾病	、	元豫備徴員	何某
何村字何々番地平民某二男甥			合格	元陸軍歩兵軍曹	何某
〃		禁錮	、	農	何某
〃			不合格	開業醫	何某

計何名　應召員　何名
內　不應召員
前書ノ通相違無之候也
何年何月何日
何市町村長姓名印

明治二十八年二月十二日印刷
明治二十八年二月十八日出版　定價金三拾五錢

編輯所　西村利之
發行者　京都市上京區寺町通リ二條下ル妙滿寺前町十番戸　河合卯之助
印刷者　京都市上京區河原町通三條上ル下丸屋町五十三番戸　村田三男三
印刷所　京都市上京區御幸町通二條上ル達摩町廿四番戸　平安印刷商會
發賣者　京都市寺町通二條下ル　河合文港堂

版權所有
版權免錄

慷慨家詩集

全一冊 { 洋假綴頗美本 / 減價金十五錢 / 郵税金四錢 }

此書は維新前後國事に奔走し王家に勤勞せし雄君英士志人の時に觸れ物に感じ平生胸間に包蓄せる慷慨悲憤の至情より出てゝ詞藻となりしものを採集したれば一讀其人の風采を追想せしむる耳ならず看て以て慨く可く忿る可く切齒扼腕坐に我國固有の元氣を勃興せしむ乞ふ青年諸士壹部を坐右に置き日本男子たるの名に背かざらんことを

丹城逸人著

忠勇奮烈 歌乃劍舞法

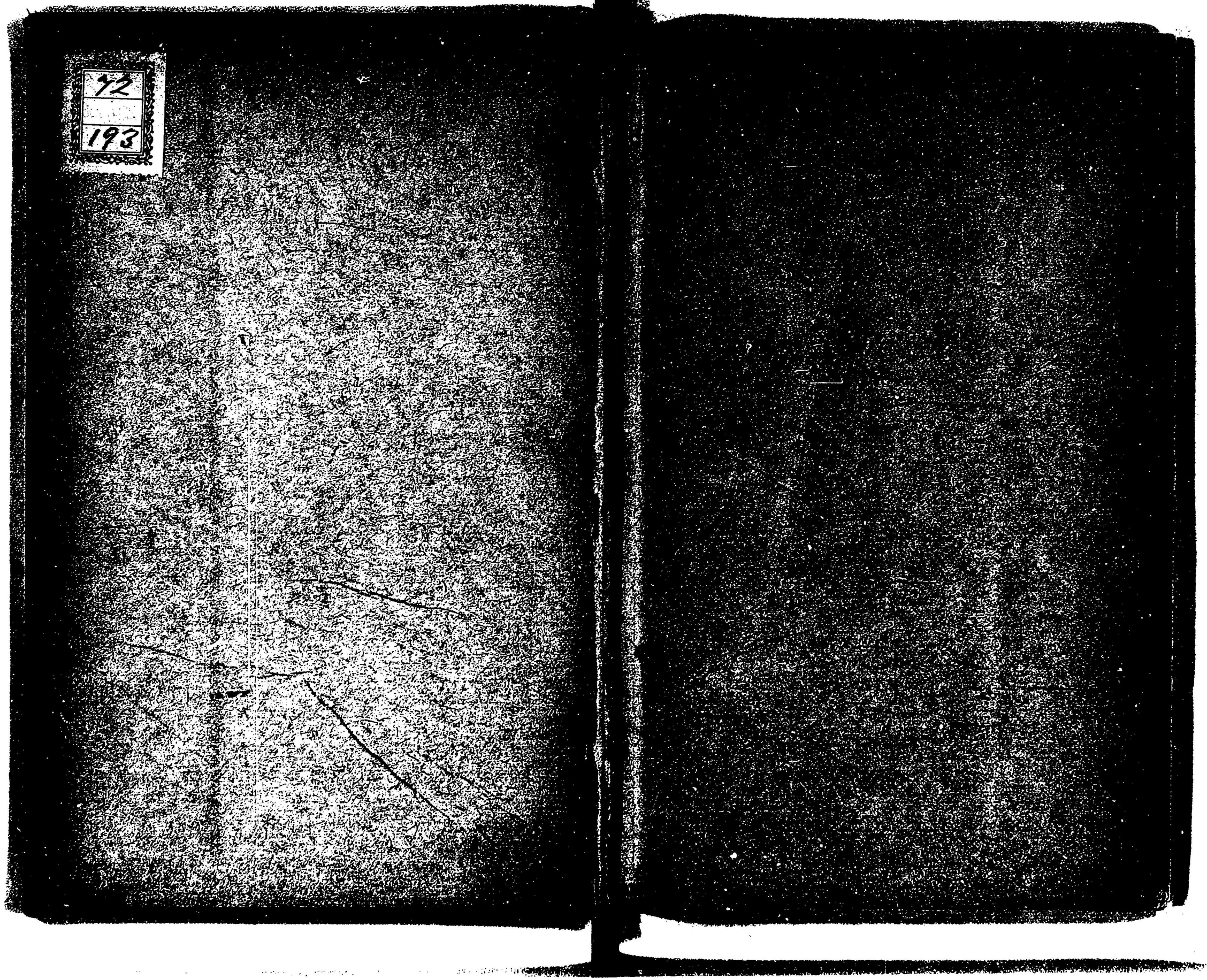
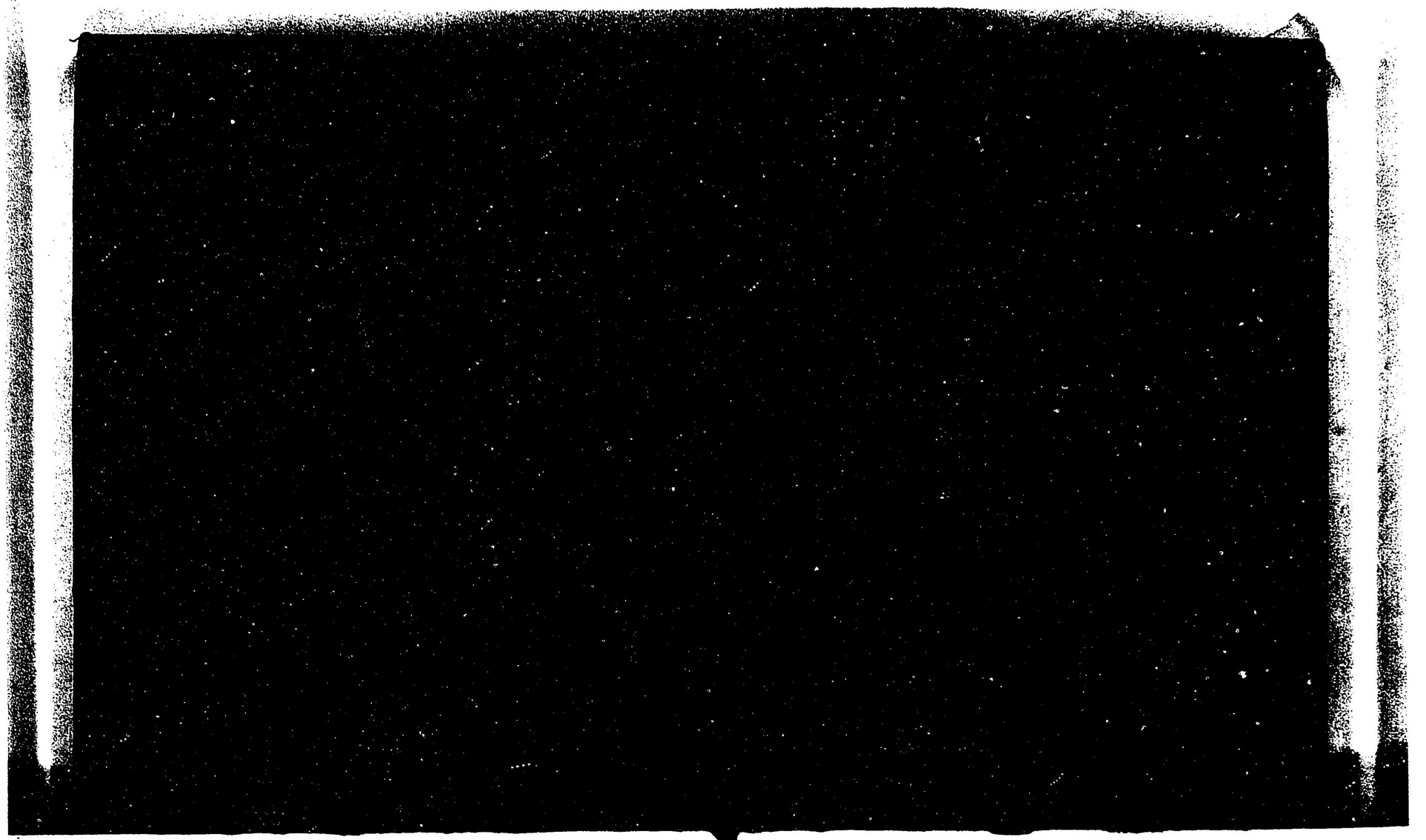
附劍舞歌集 { 減價金五錢 / 郵税金二錢 }

雄壯活潑 慷慨悲憤 劍舞之法

附劍舞詩集 { 減價金五錢 / 郵税金二錢 }

[illegible]著者か辛苦經營を以て劍舞の方法數十を詳記せし者にて一字毎に手足の動作着眼の方等を細折明記し其文は勉めて平易を主としあれは何人と雖とも一目氷然たる空前絶後の珍書なり而して晩近世に行はるゝ劍舞の書數多あれとも方法は僅々二三を示すのみ是等の書と同一視すべきものにあらず江湖の青年諸君須く一本を坐右に供し此の[illegible]眠狹の劍舞を演して勇壯活潑の元氣を鼓舞し寔に日本國民忠良の士氣心を[illegible][illegible]しんことを[illegible]書肆備に[illegible]但し郵券にて代金代用は一割増

[illegible]文港堂 河合卯之助


72
193